

64  
3/29

商法  
訴訟法  
合卷

037170-000-6

CZ-785-038

[民事訴訟法・商法]

和田 篤太郎 / 刊

M23

BBS-0776





民法訴訟法ヲ裁可シテ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御 名 御 璽

明治二十三年三月二十七日

|             |    |       |
|-------------|----|-------|
| 内閣總理大臣兼內務大臣 | 伯爵 | 山縣有朋  |
| 海軍大臣        | 伯爵 | 西鄉從道  |
| 司法大臣        | 伯爵 | 山田顯義  |
| 陸軍大臣        | 伯爵 | 松方正義  |
| 文部大臣        | 伯爵 | 大山正徳  |
| 逓信大臣        | 伯爵 | 板本武揚  |
| 農商務大臣       | 伯爵 | 後藤象次郎 |
| 外務大臣        | 伯爵 | 青木周藏  |
| 國務大臣        | 臣  | 野村通俊  |



法律第二十九號  
民事訴訟法目録

第一章 裁判所  
第一節 裁判所ノ事物ノ管轄  
第二節 裁判所ノ土地ノ管轄  
第三節 管轄裁判所ノ指定  
第四節 裁判所ノ管轄ニ付テノ合意  
第五節 裁判所ノ管轄ノ除外及ニ忌避

第二章 裁判所ノ管轄  
第一節 裁判所ノ管轄ノ種類  
第二節 裁判所ノ管轄ノ移轉  
第三節 裁判所ノ管轄ノ中止  
第四節 裁判所ノ管轄ノ回復

第三章 訴訟手続  
第一節 口頭辯論及ヒ申付書面  
第二節 期日及ヒ期間  
第三節 懈怠ノ結果及ヒ原狀回復  
第四節 訴訟手続ノ中断及ヒ中止

第四編 第一審ノ訴訟手続  
第一章 地方裁判所ノ訴訟手続  
第一節 判決前ノ訴訟手続  
第二節 判決  
第三節 兩席判決  
第四節 計算事件、財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手続

第五節 證據ノ總則  
第六節 鑑定  
第七節 書證  
第八節 檢證  
第九節 當事者本人ノ証言  
第十節 證據保全  
第十一節 區裁判所ノ訴訟手続  
第十二節 通常ノ訴訟手続  
第十三節 督促手続

第三章 抗告  
第一節 抗告  
第二節 上告

第四章 再審  
第一節 再審  
第二節 再審ノ執行

第五章 強制執行  
第一節 強制執行ノ總則  
第二節 強制執行ノ種類  
第三節 強制執行ノ執行  
第四節 強制執行ノ停止  
第五節 強制執行ノ執行  
第六節 強制執行ノ執行

民事訴訟法  
第一編 總則  
第一章 裁判所  
第一節 裁判所ノ事物ノ管轄  
第一條 裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ  
第二條 訴訟物ノ價額ニ依リ管轄ノ定マルトキハ以下數條ノ規定ニ從フ  
第三條 訴訟物ノ價額ハ起訴ノ日時ニ於ケル價額ニ依リ之ヲ算定ス  
果實、損害賠償及ヒ訴訟費用ハ法律上相牽連スル主タル請求ニ附帶シ一ノ訴ヲ以テ請求ス

第二章 裁判所ノ管轄  
第一節 裁判所ノ管轄ノ種類  
第一條 裁判所ノ管轄ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第二十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第三十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第四十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第五十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第六十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第七十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第八十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十一條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十二條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十三條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十四條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十五條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十六條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十七條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十八條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第九十九條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム  
第一百條 裁判所ノ管轄ノ種類ハ第一審、第二審、第三審ニ分チテ之ヲ定ム

































第四 間ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシムルコトキ

第五 證人カ其技術又ハ職業ノ秘密ヲ公ニスルニ非サレハ答辯スルコト能ハサルトキ

第二百九十九條 證人ハ第二百九十七條第一號及七第二百九十八條第四號ノ場合ニ於テ左ノ事項ニ付テシテ拒ムコトヲ得

- 第一 家族ノ財産ノ繼承又ハ死亡
- 第二 家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ關スル事實
- 第三 證人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル權利行為ノ成立及ヒ旨趣
- 第四 原告若クハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ係争ノ權利關係ニ關シタル行為

前條第一號、第二號ニ掲ケタル者其秘密ス可キ義務ヲ免除セラレタルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第三百條 證言ヲ拒ム證人ハ其証問ノ期日前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ又ハ期日ニ於テ其拒絕ノ原因タル事實ヲ明示シ且之ヲ説明ス可シ

期日前ニ證言ヲ拒ミタル證人ハ期日ニ出頭スル義務ナシ

裁判所書記ハ拒絕ノ書面ヲ受領シ又ハ其陳述ニ付テシテ書面ヲ作りタルトキハ之ヲ當事者ニ送付ス可シ

第三百一條 拒絕ノ當否ニ付テハ受審裁判所當事者ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ其裁判ヲ爲ス但第二百九十八條第一號ノ場合ニ於テ爲シタル拒絕ノ當否ニ付テハ所屬廳又ハ最後ノ所屬廳ノ決定ニ任ス

原告若クハ被告カ出頭セザルトキハ出頭シタル者ノ申述ヲ斟酌シテ決定ヲ爲ス

右決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第三百二條 原因ヲ開示セシメテ證言ヲ拒ミ又ハ開示シタル原因ノ棄却決定シタル後ニ之ヲ拒ミタルトキハ申立テ要セスシテ決定ヲ以テ證人ニ對シテ其拒絕ニ因リテ生シタル費用ノ賠償及ヒ四十圓以下ノ罰金ヲ宣告ス

證人ハ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫備ノ後備ノ準備ニ在ラサル証人、家屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第三百三條 原告若クハ被告ハ相手方ト相手方ト證人トノ間ニ第二百九十七條第一號乃至第五號ノ關係アルトキハ其證人ヲ回避スルコトヲ得

第三百四條 回避ノ申請ハ證人ノ証問前ニ之ヲ爲ス可シ此時限後ハ其前ニ回避ノ原因ヲ主張スルヲ得サリシコトヲ説明スルトキニ限リ其證人ヲ回避スルコトヲ得

回避ノ原因ハ之ヲ説明ス可シ

第三百五條 回避ノ申請ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

回避ノ原因アリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得之ヲ回避ノ原因ナシト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百六條 各證人ニハ其携帶ス可キ呼出狀其他適當ノ方法ヲ以テ人念ナラサルコトヲ判然トナシメタル後証問前各別ニ宣誓ヲ爲サシム可シ

然レトモ宣誓ハ特別ノ原因アルトキ殊ニ之ヲ爲サシム可キヤ否ヤニ付テ疑ノ存スルトキハ証問ノ終ルマデ之ヲ延ブルコトヲ得

第三百七條 證人ハ証問前ニ宣誓ヲ爲スコトヲ得ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ欺秘セス又何事ヲモ附加セザル旨ヲ誓フ可シ

又証問後ニ宣誓ヲ爲スコトヲ得ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ欺秘セス又何事ヲモ附加セザル旨ヲ誓フ可シ

第三百八條 裁判ハ宣誓前ニ相當ナル方法ヲ以テ宣誓者ニ偽證ノ罰ヲ諭ハス可シ

第三百九條 宣誓ヲ拒ム證人ニ付テハ第三百條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第三百十條 左ノ者ハ宣誓ヲ爲サシムルニシテ參考ノ爲メ之ヲ証問スルコトヲ得

- 第一 証問ノ時未タ滿十六歳ニ達セサル者
- 第二 宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ノ缺クル者
- 第三 刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者
- 第四 第二百九十七條及七第二百九十八條第三號並ニ第四號ノ規定ニ依リ證言ヲ拒絕スル權利アリテ之ヲ行使セザル者但第二百九十八條第三號並ニ第四號ノ場合ニ於テハ拒絕ノ權利ニ關シテ直接ニ利害關係ヲ有スル者
- 第五 訴訟ノ成否ニ直接ニ利害關係ヲ有スル者

第三百十一條 證人証問後ニ証問ス可キ證人ノ在ラサル場所ニ於テ各別ニ之ヲ爲ス

證人ノ供述互ニ齟齬シタルトキハ之ヲ對質セシムルコトヲ得

第三百十二條 證人証問ハ證人ニ其姓名、年齢、身分、職業及ヒ住居ヲ問フヲ以テ始マル又必要ナル場合ニ於テハ其事件ニ於テ證言ノ信用ニ關スル事情殊ニ當事者トノ關係ニ付テノ問ヲ爲スコシ

第三百十三條 證人ニハ其証問事項ニ付テ知リタルモノヲ陳述シテ供述セシム可シ

證人ハ供述ヲ明白及ヒ完全ナラシメ且其知り得タル原因ヲ陳述スル爲メ必要ナル場合ニ於テハ尚ホ他ノ問ヲ發ス可シ

第三百十四條 證人ハ其供述ニ疑ヘテ書類ヲ陳述シテ其他書類ヲ用非ルコトヲ得但算數ノ關係ニ限リ他書類ヲ用非ルコトヲ得

第三百十五條 陪席裁判長ニ告ケテ證人ニ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ證人ニ對シテ自ラ問ヲ發スルコトヲ得然レトモ當事者ハ證人ノ供述ヲ明白ナラシムル爲メ必要ナル事項ヲ問フ裁判長ニ申立ツルコトヲ得

第三百十六條 裁判長ニハ證人カ其証問ノ前若クハ後ニ宣誓シタルヤ又ハ宣誓セシメテ証問ヲ受ケタルヤヲ記載ス可シ

第三百十七條 受審裁判所ハ左ノ場合ニ於テ證人ノ再証問ヲ命スルコトヲ得

- 第一 證人証問カ法律上ノ規定ニ違ヒタルトキ
- 第二 證人証問ノ完全ナラサルトキ
- 第三 證人ノ供述ノ明白ナラズ又ハ兩義ニ涉ルトキ
- 第四 證人カ其供述ヲ補充又ハ更正ヲ申立ツルトキ
- 第五 其他裁判所カ再証問ヲ必要トスルトキ

第三百十八條 左ノ場合ニ於テ證人ニ依レル證據調ハ受審裁判所ノ部員一名ニ之ヲ命シ又ハ裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

- 第一 眞實ヲ探知スル爲メ現場ニ親キ證人ヲ証問スルノ必要ナルトキ
- 第二 證人カ疾病其他ノ事由ノ爲メ受審裁判所ニ出頭スル能ハサルトキ
- 第三 證人カ受審裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在リテ其裁判所ニ出頭スルニ付テキ相續ノ時日及ヒ費用ヲ要スルトキ

五月十一日第一千六百三十號附錄

第三百十九條 第二百九十四條及二百九十五條、第三百二條及七第三百九條ニ掲ケタル證人ニ對シテ受審裁判所ノ權ハ受審裁判所又ハ受審裁判所ニモ屬ス

證人カ受審裁判所又ハ受審裁判所ノ前ニ於テ理由ヲ開示シテ證言ヲ拒ミ又ハ宣誓ヲ拒ミ又ハ宣誓者クハ申立ニ因リ發シタル問ニ答フルコトヲ拒ムトキハ此拒絕ノ當否ニ付テキ裁判ヲ爲ス

受審裁判所又ハ受審裁判所カ原告若クハ被告ヨリ申立テタル証問ヲ發スルコトヲ否ムトキハ原告若クハ被告ハ其當否ニ付テ受審裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得

證人ノ再証問ハ受審裁判所又ハ受審裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第三百二十條 證人ヲ申出テタル原告若クハ被告ハ其証問ノ開始マデハ其證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得其後ハ相手方ノ承諾ヲ得ルトキニ限リ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百二十一條 各證人ハ日常ノ業務及ヒ其出頭ノ爲メ旅行ヲ要スルトキハ旅費ノ擔當ヲ請求スルコトヲ得

此金額ノ擔當ハ証問期日ノ終リタル後直ニ之ヲ請求スルコトヲ得

原告若クハ被告ハ其金額不足スルトキハ職權ヲ以テ其不足額ヲ取立ツ可シ

第七節 鑑定

第三百二十二條 鑑定ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ人證ニ付テノ規定ヲ適用ス

第三百二十三條 鑑定ノ申出ハ鑑定ス可キ事項ヲ表明シテ之ヲ爲ス

第三百二十四條 鑑定ノ可キ鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ハ受審裁判所ノ爲メ其裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ一名マデニ制限シ又ハ何時ニモ既ニ任命シタル者ニ代ヘ他ノ鑑定人ヲ任命スルコトヲ得

裁判所ハ鑑定人トシテ証問ヲ受クルニ適當ナル者ヲ指名ス可キ旨ヲ當事者ニ通告スルコトヲ得

當事者若クハ一定ノ者ヲ鑑定人ニ爲スコトヲ合意シタルトキハ裁判所ハ其合意ニ從フ可シ然レトモ裁判所ハ當事者ノ爲スコトヲ選定シ一定ノ員數ニ制限スルコトヲ得

第三百二十五條 外國ノ書類又ハ藥物ノ審査ヲ要スル場合ニ於テ必要ナル能力ヲ有スル本邦人ノ在ラザルトキハ裁判所ハ外國人ヲ鑑定人ニ任命スルコトヲ得

第三百二十六條 左ニ掲ケタル者ヲ鑑定人トシテ之ヲ爲ス義務アリ

- 第一 必要ナル種類ノ鑑定ヲ爲ス爲メ任命セラレタル者
- 第二 鑑定ヲ爲スニ必要ナル學術、技術、技能、經驗ニ當リテ從事スル者又ハ學術、技術者若クハ職業ニ從事スル者ニ公ニ任命セラレ若クハ職權ヲ得タル者

右ノ外鑑定ヲ爲スコトヲ得其裁判所ニ於テ適ニタル者ハ鑑定人タル義務ナキト雖モ鑑定ヲ爲ス義務アリ

第三百二十七條 鑑定人ハ證人カ證言ヲ拒ムコトヲ得ルト同一ノ原因ニ依リ鑑定ヲ拒ム權利アリ

官吏、公吏ハ其所屬ニ於テ異議アルトキハ之ヲ鑑定人トシテ証問スルコトヲ得

第三百二十八條 鑑定ヲ爲ス義務アル鑑定人出頭セズ又ハ鑑定ヲ拒ミタル場合ニ於テハ其者ニ對シ此方爲ニ生シタル費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ宣告ス可シ但其鑑定人ヲ勾引スルコトヲ得

第三百二十九條 鑑定人ハ其鑑定ヲ爲ス前ニ其鑑定人タル義務ヲ公平且誠實ニ履行ス可キ旨ヲ誓フ可シ

第三百三十條 受審裁判所ハ其意見ヲ以テ左ノ條件ヲ定ム可シ

第三百三十一條 受審裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ受審裁判所又ハ受審裁判所ニ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ受審裁判所又ハ受審裁判所ノ第三十三條及七第三百三十四條第一號並ニ第二號ノ規定ニ依リ受審裁判所ニ職權ヲ有ス

第三百三十二條 鑑定人ハ日常ノ業務及ヒ旅費金ノ擔當ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第三百二十一條ノ規定ヲ適用ス

第三百三十三條 特別ノ智識ヲ要セシ過去ノ事實又ハ事情ニシテ其實驗アル者ノ証問ニ因リテ鑑定ス可キトキハ人證ニ付テノ規定ヲ適用ス

第八節 鑑定

第三百三十四條 鑑定ノ申出ハ鑑定ヲ提出シテ之ヲ爲ス

第三百三十五條 鑑定者其使用セントスル鑑定書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書面ヲ申出テ相手方ニ其鑑定書ヲ提出シテ之ヲ認ムコトヲ得

第三百三十六條 相手方ハ左ノ場合ニ於テ鑑定書ヲ提出スル義務アリ

- 第一 鑑定者カ民法ノ規定ニ從ヒ訴訟外ニ於テモ鑑定書ヲ引渡シ又ハ其提出ヲ請求スルコトヲ得ルトキ
- 第二 鑑定書カ其旨趣ニ因リ鑑定者及ヒ相手方ニ共通ナルトキ
- 第三 第三百三十七條 相手方ハ其手ニ存スル鑑定書ニシテ其訴訟ニ於テ證明ノ爲メ引用シタルモノヲ提出スル義務アリ
- 第四 鑑定書ノ提出ヲ命セントコトヲ申立テ、之ヲ爲スコシ
- 第五 鑑定書ノ提出ヲ命セントコトヲ申立テ、之ヲ爲スコシ

第三百三十七條 鑑定書ニ依リ鑑定ス可キ事實ノ重要ニシテ且申立テ正當ナリト認ムル場合ニ於テ相手方カ鑑定書ヲ提出スルコトヲ命セントコトヲ申立テ、之ヲ爲スコシ

第三百三十八條 鑑定書ノ提出ヲ命セントコトヲ申立テ、之ヲ爲スコシ

- 第一 鑑定書ノ提出
- 第二 鑑定書ニ依リ鑑定ス可キ事實ノ表明
- 第三 鑑定書ノ提出
- 第四 鑑定書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スル理由タル事情
- 第五 鑑定書ヲ提出ス可キ義務ノ原因ノ表明

第三百三十九條 裁判所ハ鑑定書ニ依リ鑑定ス可キ事實ノ重要ニシテ且申立テ正當ナリト認ムル場合ニ於テ相手方カ鑑定書ヲ提出スルコトヲ命セントコトヲ申立テ、之ヲ爲スコシ

第三百四十條 相手方カ鑑定書ヲ提出シタル旨ヲ申立ツルトキハ其申立ノ眞實ナルヤ否ヤヲ定ムル爲メ又ハ鑑定書ノ所在ヲ穿鑿スル爲メ又ハ鑑定書ノ使用ヲ妨グル目的ヲ以テ故意ニ鑑定書ヲ隱匿シ若クハ使用ニ耐ヘザラシメタルヤ否ヤヲ穿鑿スル爲メ本章第十節ノ規定ニ從ヒテ相手方本人ヲ証問ス可シ

第三百四十一條 鑑定書カ其官廳ノ保護ニ係ラス又ハ其所任ノ開示スルコトヲ得ザル旨ノ長官ノ證明書ヲ以テ証問ニ換フ裁判所ハ此證明書ヲ提出シタル爲メ相當ノ期間ヲ定ム可シ

第三百四十二條 鑑定書ヲ所持スルコトヲ明白シ又ハ之ヲ所持セズト申立テタル相手方カ其鑑定書ヲ提出ス可シトノ命ニ從ハス又ハ相手方カ所持セズト申立テタル鑑定書ニ付テ証問ヲ受ケテ供述スルコトヲ拒ミタルトキハ八號證人ノ使用ヲ妨グル目的ヲ以テ故意ニ鑑定書ヲ隱匿



シテハ使用ニ耐ヘザラシメタルコトハ明瞭ナルトキハ原告者ノ提出シタル證書ノ真否ヲ正當ナルモノト看做ス若シ原告者ノ提出シタルコトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ證書ノ性質及ヒ前條第二項ニ據テタル證明書ヲ裁判所ノ定メタル期間内ニ提出ス、ルトキハ相手方タル官廳ニ對シテ前項ト同一ノ結果ヲ生ス

第三百四十二條 原告者其使用セントスル證書カ第三者ノ手ニ在スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ其證書ヲ取寄ル爲メ期間ヲ定メシコトヲ申立テ、之ヲ爲ス

第三百四十三條 第三者ハ原告者ノ相手方ニ於ケル同一ナル理由ニ因リ證書ヲ提出スル義務アリ、ルトモ強テ證書ヲ提出セシムルコトハ訴ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百四十四條 第三百四十二條ニ從ヒ申立テ爲スニハ第三百三十八條第一號乃至第三號及ヒ第五號ノ條件ヲ履行シ證書カ第三者ノ手ニ在スルコトヲ證明ス可シ

第三百四十五條 證書ニ依リ證書ノ可キ事實ノ重要ニシテ且其申立テ方前條ノ規定ニ適スルトキハ裁判所ハ證書提出ノ期間ヲ定メ可シ

第三百四十六條 原告者其使用セントスル證書カ官廳又ハ公吏ノ手ニ在スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ證書ヲ送付シ官廳又ハ公吏ニ囑託セラレシコトヲ申立テ、之ヲ爲ス

第三百四十七條 原告者其使用セントスル證書カ官廳又ハ公吏ノ手ニ在スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ原告者若シハ被告カ訴訟ヲ提起スル故意ヲ以テ又ハ甚シキ急慢ニ因リ證書ヲ早ク申出テザラシコトノ心證ヲ得タルトキハ申出ニ因リ其證書ノ申出ヲ却下スルコトヲ得

第三百四十八條 口頭辯論ノ際證書ヲ提出スルニ於テハ其證據若シハ紛失ノ恐アリ又ハ他ノ顯著ナル障礙アルトキハ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ證書ヲ提出ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第三百四十九條 受命判事又ハ受託判事ノ明細書及ヒ其原本ヲ調査シ證書ノ一分ノ必要ナルトキハ第三百七條第二項ノ規定ニ從ヒテ作リタル抄本ヲ之ニ添附ス可シ

第三百五十條 公正證書ハ正本又ハ認證書ヲ受ケタル原本ヲ以テ之ヲ提出スルコトヲ得然レトモ裁判所ハ原告者ニ正本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三百五十一條 原告者ハ原本ヲ以テ之ヲ提出シ可シ若シ原告者カ未タ提出セザル原本ノ真正ニ付キ一致シ其證書ノ效力又ハ解釋ニ付テノミ爭フ爲スルトキハ原告者提出スルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ原告者ニ原本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三百五十三條 提出シタル原本ニ換ヘテ正本又ハ原本ヲ提出ス可キ旨ノ命ニ從ハザルトキハ裁判所ハ心證ヲ以テ原本ニ如何ナル證據力ヲ付ス可キ旨ヲ裁判ス

第三百五十四條 原告者ハ證書ヲ提出シタル後ハ相手方ノ承諾ヲ得ルトキニ限り此證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百五十五條 公正證書又ハ檢査ノ經タル私署證書ヲ偽造若シハ偽造ナリト主張スル者ハ其證書ノ真否ヲ確定セントコトヲ申立テ爲ス可シ

第三百五十六條 此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ真否ニ付キ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

第三百五十七條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百五十八條 私署證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百五十九條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十一條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十二條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十三條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十四條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十五條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十六條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十九條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十二條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十四條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十六條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十一條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十二條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十三條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十五條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十六條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十七條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十八條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十九條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十條 原告者其使用セントスル證書ノ檢査ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若シハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得

出頭セザルトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ訊問ニ因リテ證據ス可キ相手方ノ主張ヲ正當ナリト認ムルコトヲ得

第三百六十四條 訴訟無能力者ノ法律上代理人カ訴訟ヲ爲ストキハ法律上代理人若シハ訴訟無能力者ノ訊問ス可キ旨又ハ此等ノ者ヲ共ニ訊問ス可キ旨ヲ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ決定ス

第三百六十五條 法律上代理人數人アルトキハ其一ハ訊問ス可キ旨又ハ數人ヲ訊問ス可キ旨ヲ亦前項ニ同シ

第十一節 證據保全

第三百六十六條 證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アルトキハ證據保全ノ爲メ證人若シハ鑑定人ノ訊問又ハ檢査ヲ申立テ可トコトヲ得

第三百六十七條 訴訟カ既ニ繫屬シタルトキハ此申請ハ受託裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條 切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ訊問ヲ受ケ可キ者ノ現在地又ハ檢査ス可キ物ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ得

第三百六十九條 訴訟ノ未タ繫屬セザルトキハ前項ニ記載シタル區域裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ得

第三百七十條 右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條 申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 相手方ノ表示

第二 證據ヲ爲ス可キ事實ノ表示

第三 證據方法殊ニ證人若シハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ス可キトキハ其表示

第四 證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アル理由此理由ハ之ヲ證明ス可シ

第三百七十二條 申請ニ付テノ決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條 申請ヲ許容スル決定ニハ證據保全ノ爲メ可キ事實及ヒ證據方法殊ニ訊問ス可キ證人若シハ鑑定人ノ氏名ヲ記載ス可シ此決定ニ對シテハ不服ヲ申立テ可トコトヲ得

第三百七十四條 證據保全ノ期日決定ハ申立人ノ呼出シ又決定及ヒ申請ノ原本ヲ送達シテ其權利防衛ノ爲ニ相手方ヲ呼出シ可シ

第三百七十五條 切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ適當ナル時間ニ相手方ヲ呼出スコトヲ得ザリシトキモ證據保全ノ妨ヲ妨タルコトヲ得

第三百七十六條 證據保全ハ本第六節、第七節及ヒ第九節ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百七十七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十一條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十二條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十三條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十五條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十六條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十一條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十二條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十三條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十六條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零一條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零二條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零三條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零四條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零五條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零六條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百零九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十一條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十二條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十三條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十四條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十五條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十六條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百一十九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十二條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十三條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十五條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十一條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十二條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十三條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十四條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十六條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十一條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十三條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十四條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十五條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十六條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十七條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十八條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十九條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十條 證據保全ノ期日決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得



定ノ數額、目的物及原因ノ表示  
第三百八十五條 裁判所ハ申請ヲ調査シ其申請カ前條ノ規定ニ適當セス又ハ申請ノ旨趣ニ於テ請求ノ理由ナク又ハ現狀理由ナキコトヲ認ムルハ其申請ヲ却下ス

請求ノ一分ノミ付キ支拂命令ヲ發シタルコトハ亦其申請ヲ却下ス然レトモ數箇ノ請求中或ルモノニ理由ナクシテ他ノモノニ理由アリト見ユルコトハ其理由アリト見ユルモノニ限リ申請ヲ許サス

右却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立テラレ得ズ然レトモ通常ノ訴訟手續ニ依リ訴追スルヲ妨クルコト無シ

第三百八十六條 支拂命令ハ總テ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス  
支拂命令ニハ第三百八十四條第一號及第二號ニ掲ケタル申請ノ要件ヲ記載シ且即時ノ強制執行ヲ避ケンテ欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ請求ヲ滿足セシメ及ヒ其手續ノ費用ニ付キ定ムル數額ヲ債務者ニ負擔ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ノ債務者ニ對シテ命令ヲ記載ス可シ

前項ノ期間ハ爲替ヨリ生ズル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第三百八十七條 權利拘束ノ効力ハ支拂命令ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ始マル  
支拂命令ノ送達ハ之ヲ債權者ニ通知ス可シ

第三百八十八條 債務者ハ支拂命令ニ對シテ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ヲ申立テラレ得  
第三百八十九條 債務者カ請求ノ全部又ハ一分ニ對シテ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルトキハ支拂命令ノ効力ヲ失フ然レトモ權利拘束ノ効力ヲ存ス

數箇ノ請求中或ルモノニ對シテ異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其他ノ請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付効力ヲ有ス

第三百九十條 適當ナル時間ニ異議ヲ申立テタル場合ニ於テ請求ニ付キ起ス可キ裁量裁量所ノ管轄ニ屬スルコトハ其訴ハ支拂命令ノ送達ノ同時ニ區裁量所ニ之ヲ起シタルモノト看做ス其口頭異議ノ期ハ第三十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム

第三百九十一條 請求ニ付キ起ス可キ裁量裁量所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ適當ナル時間ニ異議ヲ申立テラレ得然レトモ權利拘束ノ効力ヲ存ス

債權者其通知書ヲ送達アリタル日ヨリ起算シ一ヶ月ノ期間内ニ管轄裁量所ニ訴ヲ起サハルトキハ權利拘束ノ効力ヲ失フ

第三百九十二條 督促手續ノ費用ハ適當ナル時間ニ異議ヲ申立アリタル場合ニ於テハ起ス可キ訴訟ノ費用ノ一分ト看做ス

前條ノ場合ニ於テ期間内ニ訴ヲ起サハルトキハ手續ノ費用ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

第三百九十三條 支拂命令ハ其命令中ニ掲ケタル期間ノ經過後債權者ノ申請ニ因リ之ヲ假ニ執行シ得ヘキコトヲ宣言ス但假執行ノ宣言前債權者異議ヲ申立テラレタルトキニ限ル

右假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス其執行命令ハ債權者ニ於テ計算ノ手續ノ費用ヲ擔負ス可シ

債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條 執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル期間判決同一ナリトス其執行命令ニ對シテハ第三百九十五條ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ申立テラレ得然レトモ執行命令ノ管轄裁量所ノ管轄ニ屬セザルトキハ區裁量所ハ其抗告ヲ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ申立テタルモノト見ユルニ付辯論及ヒ裁判ヲ爲ス此場合ニ於テハ第三百九十一條第二項ニ定メタル期間ハ故障ヲ爲ス判決ヲ以テ之ヲ起ス可シ

然レトモ被控人カ控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

第四百七條 答辯書ニ新ナル事實若クハ證據方法ヲ掲ケ又ハ附帶控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ控訴人ニ送達ス可シ

第四百八條 右ノ外控訴ノ訴手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ若異ノ生ズルモノハ此限ニ在ラス

第四百九條 當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ其兩控訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲スヲ以テ通例トス

第四百十條 口頭辯論ハ其期日ニ於テ被控人ノ控訴期間ノ未タ經過セザルトキハ其申立ニ因リ期間ノ満了ヲテ之ヲ延期ス

第四百十一條 控訴裁量所ニ於ケル訴訟ハ不服ヲ申立ニ因リ定マリタル範圍内ニ於テ更ニ之ヲ辯論ス

第四百十二條 當事者ハ其控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ當否ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル限リハ口頭辯論ノ際第一審ニ於ケル辯論ノ結果ヲ陳述ス可シ

第四百十三條 訴ノ變更ハ相手方ノ承諾アルトキト雖モ之ヲ許サス

第四百十四條 妨訴ノ抗辯ハ權利ヲ以テ防禦ス可カラサルモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非シテ第一審ニ於テ提出シ能ハサルコトヲ證明スルモノニ限リ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百十五條 當事者ハ第一審ニ於テ主張セザリシ攻撃防禦ノ方法ニ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第四百十六條 新ナル請求ハ第九十六條第二號及第三號ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非シテ第一審ニ於テ提出シ能ハサルコトヲ證明スルモノニ限リ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百十七條 事實又ハ證據ニ付キ第一審ニ於テ爲サリシ陳述又ハ拒ミタル陳述ハ第二審ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十八條 第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ明白ハ第二審ニ於テモ亦其効力ヲ有ス

第四百十九條 控訴裁量所ハ控訴ヲ許ス可キ否又ハ控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ起シタルモノト看做ス可シ然レトモ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ之ヲ控訴トシテ之ヲ棄却ス可シ

第四百二十條 第一審ノ裁判ハ變更ノ申立テタル部分ニ限リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十一條 第一審ニ於テ是認シタル請求ニ關スル證據ノ事實ニ對シテ申立ニ從ヒ辯論及ヒ裁判ヲ必要トスルモノハ第一審ニ於テ此等點ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲サハルトキト雖モ控訴裁量所ニ於テ其辯論及ヒ裁判ヲ爲ス

第四百二十二條 控訴裁量所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ尚ホ辯論ヲ必要トスルトキハ其事第一審裁判所ニ送達ス可シ

第一 不服ヲ申立テラレタル判決カ附帶判決ナルトキ

第二 不服ヲ申立テラレタル判決カ附帶判決ニ對スル故障ヲ不審法トシテ通知シタルモノ

ル期間ハ故障ヲ爲ス判決ノ確定ヲ以テ始マル

第三百九十五條 時期ニ後レテ申立テタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却下ス

此却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立テラレ得ズ

第三編 上訴

第三百九十六條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

第三百九十七條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦控訴裁量所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立テラレ得ズ然レトモ控訴裁量所ニ於テハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立テラレ得ルトキハ此限ニ在ラス

第三百九十八條 關聯判決ニ對シテハ期日ヲ懈怠シタル者ヨリ控訴ヲ以テ不服ヲ申立テラレ得ズ但故障ヲ許サハル關聯判決ニ對シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限リ控訴ヲ以テ不服ヲ申立テラレ得

第三百九十九條 控訴ハ口頭辯論ノ前ニ於テハ被控人ノ承諾ナクシテ之ヲ取テラレ得

控訴ノ取下ハ上訴權ヲ喪失スル結果ヲ生ズ

第四百條 控訴期間ハ一月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始マル

第四百一條 規定ニ從ヒテ控訴ハ無効トス

第四百二條 規定ニ從ヒテ控訴期間内ニ追加裁判ヲ以テ判決ヲ補充シタルトキハ控訴期間ノ進行ハ最初ノ判決ニ對スル控訴ニ付テモ追加裁判ノ送達ヲ以テ始マル

第四百三條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ控訴裁量所ニ送達シテ之ヲ爲ス

第四百四條 控訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 控訴セラルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シテ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

此他控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且判決ニ對シテ如何ナル程度ニ於テ不服ナキ及ヒ判決ニ付キ如何ナル變更ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ若シ新ニ主張セシムル事實及ヒ證據方法ヲ掲ケ又ハ其新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲ケ可シ

第四百五條 控訴狀ニ付キ起ス可キ裁量裁量所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ適當ナル時間ニ異議ヲ申立テラレ得然レトモ權利拘束ノ効力ヲ存ス

此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百六條 控訴狀ノ送達ノ口頭辯論ノ期日トシテ在スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ提出ス可キ期間ノ催告ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス

第四百七條 前項ノ場合ニ於テモ亦第九十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百八條 答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且被控人ノ一定ノ申立及ヒ其主張セントスル新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲ケ可シ

第四百九條 被控人ハ自己ノ控訴ヲ放棄シタルトキ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第四百十條 附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立テラレタルコトニ付テハ第三百九十八條ノ規定ニ從テ之ヲ爲ス

第一 控訴ヲ取下ケタルトキ

第二 控訴ヲ取下ケタルトキ

第三 不服ヲ申立テラレタル判決カ妨訴ノ抗辯ノミニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第四 請求カ其原因及ヒ數額ニ付キ爭アル場合ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決カ先ノ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第五 不服ヲ申立テラレタル判決カ證據證據及ヒ爲替訴訟ニ於テ被控人ノ被告ニ別訴訟ヲ以テ進行ヲ爲ス權ヲ留保スルモノナルトキ

第四百十一條 第一審ニ於テ訴訟手續ニ付テ規定ニ違背シタルトキハ控訴裁量所ハ其判決及ヒ證據方法ニ對シテ廢棄シ事件ヲ第一審裁判所ニ送達ス可シ

第四百十二條 控訴ノ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ宣渡ス可シ

第四百十三條 判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトハ相手方カ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ判決ニ付キ不服ヲ申立テタル部分ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條 第二審ノ規定ニ從ヒテ防禦ノ方法ヲ却下スルトキハ其防禦ノ方法ヲ主張スル權ハ之ヲ被告ニ留保ス可シ

第四百十五條 此留保ノ權カサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ判決ノ補充ヲ申立テラレ得

第四百十六條 留保ノ權カサル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ終局判決ト看做ス

第四百十七條 防禦ノ方法ニシテ被告ニ其主張ヲ留保スルモノニ付テハ其訴訟ハ第二審ニ屬ス

第四百十八條 控訴ノ手續ニ於テ控訴ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルトキハ前項判決ヲ廢棄シテ其訴ヲ棄却シ且申立ニ因リ判決ニ基キ支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノヲ返還ス可キコトヲ宣渡シ且費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第四百十九條 控訴人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セザルトキハ出頭シタル被控人ノ申立ニ因リ關聯判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ宣渡ス可シ

第四百二十條 被控人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セザル場合ニ於テ出頭シタル控訴人ヨリ關聯判決ノ申立ヲ爲スルトキハ第一審裁判ノ證據ト爲ラレタルモノニ擬制セザル控訴人ノ事實上ノ供述ハ被控人ノ之ヲ明白シタルモノト看做シ且第一審裁判所ノ事實上ノ確定ヲ補充シ若クハ辯論スル爲メ控訴人ノ申立テタル證據ノ證據ハ既ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト看做シ關聯判決ヲ爲ス

第四百二十一條 判決申ノ事實ヲ摘示ニ付テハ前審ノ判決ヲ引用スルコトヲ得

第四百二十二條 控訴裁量所ノ書記ハ控訴狀ノ提出ヨリ二十四時間ニ第一審裁判所ノ書記ニ控訴記録ヲ送付ナラシム

第四百二十三條 控訴狀ノ後其記録ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル際本共ニ第一審裁判所ノ書記ニ之ヲ返還ス可シ

第四百二十四條 上告ハ地方裁判所及ヒ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

第四百二十五條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦上告裁判所ノ判決ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立テラレ得ズ然レトモ控訴裁量所ニ於テハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立テラレ得ルトキハ此限ニ在ラス

第四百二十六條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十七條 法例ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

第四百二十八條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十九條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十一條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十二條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十三條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十四條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十六條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十七條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十八條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十九條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得











第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キテ爲ス...

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス...

第五百十八條 執行文ハ判決ノ正本ハ判決ノ確定シタルトキ...

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承認人...

第五百二十條 執行文ハ判決ノ正本ニ基キテ執行文ノ付與ニ付...

第五百二十一條 第五百十八條第二項及第五百十九條ニ依リ...

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債權者カ異議ヲ申立テタルトキ...

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ數額ヲ求メ又ハ前...

第五百二十四條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲ス...

第五百二十五條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲ス...

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲ス...

第五百二十七條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲ス...

第五百二十八條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲ス...

執行文ノ交付

第五百二十九條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十一條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十二條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十三條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十四條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十五條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十六條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十七條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十八條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百三十九條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百四十條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...

第五百四十一條 債權者ハ執行文ヲ交付シタル判決ノ正本ニ基キテ...



第五百五十三條 強制執行ノ開始後二月主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此後更ノ生ゼシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要アリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ノ受テタル請求ト同時ニ之ヲ取立テ可シ

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ請求ス可シ

第五百五十六條 債權ノ後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人ノ軍用ニ對シテ兵隊及ヒ軍用會舍又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ補助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受審裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經テシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十九條 強制執行ハ左ノ條件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立タルコトヲ得ル裁判

第二 執行命令

第三 訴ノ提起後受審裁判所ニ於テ又ハ受審判事者クハ受審判事ノ面而ニ於テ爲シタル和解

第四百八十一條 規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五百六十條 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代償物者クハ有價證券ノ一定ノ數額ヲ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付テ作りタル證書ニテ直接ニ強制執行ヲ受テ可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第五百六十一條 前條ニ據テ作りタル債務名義ニ因リ強制執行ニハ第五百五十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ適用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生ズルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十二條 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル債權者又ハ債務者ニ於テ承認アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

第五百六十三條 執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第五百六十四條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百六十五條 本編ニ定メタル裁判所ノ管轄ス

第五百六十六條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百六十七條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百六十八條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百六十九條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到来ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百七十條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到来ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百七十一條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到来ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百七十二條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到来ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百七十三條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到来ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス

第五百七十四條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ依リ此ニ因リテ證書ヲ主張スル債權者又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到来ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ノ對シテ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所ノ管轄ス







第二章 不動產之強制執行

第一節 通則

第六百四十一條 不動產之強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス
第一 強制執行
債權者ハ債權ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併シテ執行セシムルコトヲ得

第二節 強制執行

第六百四十二條 強制執行ノ申立テハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 債權者ハ債權者及ヒ其裁判所ノ表示
第二 不動產ノ表示
第三 債權ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債權名義

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ諸書ヲ添付ス可シ
第一 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ登記簿ノ謄本ヲ添付ス可シ
第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債權者ノ所有タルコトヲ證明ス可シ

第六百四十四條 債權手續ノ開始ハ決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ
第六百四十五條 裁判所ハ債權手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付テハ強制執行ノ申立アルモノニ對シテハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ適用ス

第六百四十六條 監督要求ハ其原因ヲ明示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモテ債務者モ有セザル者ハ監督所ヲ指定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲ケル債權者ハ其債權ヲ確定スルコトヲ得
第一 債權者
第二 登記簿ニ記入アル不動産上權利者
第三 登記簿ニ記入アル不動産ノ所有權人

第六百四十九條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百五十條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百五十一條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百五十二條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百五十三條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百五十四條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百五十五條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百五十六條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第二章 不動產之強制執行

第一節 通則

第六百五十七條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百五十八條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第二節 強制執行

第六百五十九條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百六十條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百六十一條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百六十二條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百六十三條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百六十四條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百六十五條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百六十六條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百六十七條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百六十八條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百六十九條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百七十條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百七十一條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百七十二條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百七十三條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百七十四條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ

第六百七十五條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ
第六百七十六條 債權者ハ其債權ヲ證明シタル後執行力アル正本ヲ添付ス可シ



手続ノ停止ヲ爲シタルトキニ...

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ...

第六百七十六條 第六百七十二條...

第六百七十七條 前條ノ規定ニ...

第六百七十八條 競落期日ト...

第六百七十九條 競落ヲ許スル...

第六百八十條 利害關係人ハ...

第六百八十一條 競落ヲ許サ...

第六百八十二條 抗告裁判所...

第六百八十三條 執行裁判所...

第六百八十四條 競落ヲ許ス...

第六百八十五條 第六百七十八...

第六百八十六條 競落ハハ...

第六百八十七條 競落人ハ...

第六百八十八條 競落人ハ...

第六百八十九條 競落人ハ...

第六百九十條 競落人ハ...

第六百九十一條 競落人ハ...

第六百九十二條 競落人ハ...

第六百九十三條 競落人ハ...

第六百九十四條 競落人ハ...

第六百九十五條 競落人ハ...

第六百九十六條 競落人ハ...

第六百九十七條 競落人ハ...

第六百九十八條 競落人ハ...

第六百九十九條 競落人ハ...

第七百條 競落人ハ...

第七百零一條 競落人ハ...

第七百零二條 競落人ハ...

第七百零三條 競落人ハ...

第五十五條乃至第六百五十七...

第六百八十六條 競落人ハ...

第六百八十七條 競落人ハ...

第六百八十八條 競落人ハ...

第六百八十九條 競落人ハ...

第六百九十條 競落人ハ...

第六百九十一條 競落人ハ...

第六百九十二條 競落人ハ...

第六百九十三條 競落人ハ...

第六百九十四條 競落人ハ...

第六百九十五條 競落人ハ...

第六百九十六條 競落人ハ...

第六百九十七條 競落人ハ...

第六百九十八條 競落人ハ...

第六百九十九條 競落人ハ...

第七百條 競落人ハ...

第七百零一條 競落人ハ...

第七百零二條 競落人ハ...

第七百零三條 競落人ハ...

第七百零四條 競落人ハ...

第七百零五條 競落人ハ...

第七百零六條 競落人ハ...

第七百零七條 競落人ハ...

第七百零八條 競落人ハ...

第七百零九條 競落人ハ...

第七百一十條 競落人ハ...

第七百一十一條 競落人ハ...

第七百一十二條 競落人ハ...

第七百一十三條 競落人ハ...

第七百一十四條 競落人ハ...



此取消ハ各債権者不効ノ此益ヲ以テ受ケタルトキハ...

第七百十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ...

第七百十九條 船舶ハ執行手續中押留シ...

第七百二十條 強制執行ニ付テハ...

第七百二十一條 債権者ハ公債主官...

第七百二十二條 債権者ハ公債主官...

第七百二十三條 債権者ハ公債主官...

第七百二十四條 債権者ハ公債主官...

第七百二十五條 債権者ハ公債主官...

第七百二十六條 債権者ハ公債主官...

第七百二十七條 債権者ハ公債主官...

第七百二十八條 債権者ハ公債主官...

第七百二十九條 債権者ハ公債主官...

第七百三十條 債権者ハ公債主官...

第七百三十一條 債権者ハ公債主官...

第七百三十二條 債権者ハ公債主官...

第七百三十三條 債権者ハ公債主官...

第七百三十四條 債権者ハ公債主官...

第七百三十五條 債権者ハ公債主官...

第七百三十六條 債権者ハ公債主官...

第七百三十七條 債権者ハ公債主官...

第七百三十八條 債権者ハ公債主官...

第七百三十九條 債権者ハ公債主官...

第七百四十條 債権者ハ公債主官...

第七百四十一條 債権者ハ公債主官...

第七百四十二條 債権者ハ公債主官...

第七百四十三條 債権者ハ公債主官...

第七百四十四條 債権者ハ公債主官...

第七百四十五條 債権者ハ公債主官...

第七百四十六條 債権者ハ公債主官...

第七百四十七條 債権者ハ公債主官...

第七百四十八條 債権者ハ公債主官...

第七百四十九條 債権者ハ公債主官...

第七百五十條 債権者ハ公債主官...

第七百五十一條 債権者ハ公債主官...

第七百五十二條 債権者ハ公債主官...

第七百五十三條 債権者ハ公債主官...

第七百五十四條 債権者ハ公債主官...

第七百五十五條 債権者ハ公債主官...

第七百五十六條 債権者ハ公債主官...

第七百五十七條 債権者ハ公債主官...

第七百五十八條 債権者ハ公債主官...

第七百五十九條 債権者ハ公債主官...

第七百六十條 債権者ハ公債主官...



第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又は権利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲スル...

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得...

第七百六十六條 公示催告ニ付テハ公告ノ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載...

第七百六十七條 公示催告ノ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ...

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲スコトハ適當ナル...

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス...

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ...

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セザルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ...

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス...

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得...

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得...

第七百七十五條 除權判決ニ對シテハハノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄ス...

第七百七十六條 一人名又ハ數名ノ申立人ヲシテ争フ裁判所ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物...

第七百七十七條 將來ノ争ニ關スル申立人ハ其權利關係及ヒ其關係ヨリ生ズル争ニ關...

第七百七十八條 仲裁契約ニ依リテ選定スル仲裁人ノ選定ニ關スル決定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ...

第七百七十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方...

第七百八十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其...

第七百八十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ...

第七百八十二條 仲裁契約ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サリシトキハ其...

第七百八十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サリシトキハ其...

第七百八十四條 仲裁人ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取替ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責...

第七百八十五條 仲裁人ノ必要ト認めル判断上ノ行為ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノ...

第七百八十六條 署名ノ仲裁人カ仲裁判断ヲ爲スコトキハ過半数ヲ以テ其判断ヲ爲スコト...

第六編 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スル...

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一箇月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判...

第七百七十六條 裁判所ハ第二百二十條ノ條件ノ存セザルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ...

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他略法ニ無効ト爲シ得ヘキコ...

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且其式裏書ヲ付シタル證券ニ付テ...

第七百七十九條 公示催告手續ハ證券ニ對シテ履行地ノ裁判所ニ之ヲ管轄ス若シ證券ニ其...

第七百八十條 申立人ハ申立ノ證據トシテ左ノ手續ヲ爲スコトヲ得...

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證據ヲ提出ス...

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新...

第七百八十三條 公示催告ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示ス可シ...

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證據ヲ無効ナリト宣言ス可シ...

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證據ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ...

第七百八十六條 仲裁判断ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人ノ二署名捺印ス可シ...

第七百八十七條 仲裁判断ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ルコトヲ得...

第七百八十八條 仲裁手續ヲ許ス可カラシメシトキ...

第七百八十九條 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ...

第七百九十條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...

第七百九十一條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...

第七百九十二條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...

第七百九十三條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...

第七百九十四條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...

第七百九十五條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...

第七百九十六條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...

第七百九十七條 仲裁判断ノ取消ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ管轄シタル...



法律

朕商法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

明治二十三年三月二十七日

法律第三十二號

商法目錄

總則

第一編 商ノ通則

第一章 商事及商人

第二章 商業登記簿

第三章 商號

第四章 商業帳簿

第五章 代務人及商業使用人

第六章 商事會社及共算商業組合

商事會社總則

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第二款 會社契約ノ變更

第三款 社員間ノ權利義務

第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

第五款 社員ノ退社

第六款 會社ノ解散

第七款 合資會社

第三節 株式會社

第一款 總則

第二款 會社ノ發起及設立

第三款 會社ノ組織及株主名簿

第四款 株式

第五款 取締役及監査役

第六款 株主總會

第七款 定款ノ變更

第八款 株金ノ拂込

第九款 會社ノ義務

|               |           |
|---------------|-----------|
| 內閣總理大臣兼內務大臣伯爵 | 山縣有朋      |
| 海軍大臣          | 西鄉從道      |
| 司法大臣          | 山田顯義      |
| 陸軍大臣          | 松方正義      |
| 文部大臣          | 臣伯爵 大山 巖  |
| 逓信大臣          | 臣伯爵 榎本武揚  |
| 農商務大臣         | 臣伯爵 後藤象二郎 |
|               | 臣子爵 青木周藏  |
|               | 岩村通俊      |

第十款 會社ノ檢査

第十一款 取締役及監査役ニ對スル訴訟

第十二款 會社ノ解散

第十三款 會社ノ清算

第十四款 附則

第五章 共算商業組合

第七節 商事契約

第一節 契約ノ種類

第二節 契約ノ取結

第三節 契約ノ履行

第四節 價額賠償、損害賠償及割引

第五節 違約金

第六節 代理

第七節 時効

第八節 交互計算

第九節 質權

第十節 留置權

第十一節 指圖證券及無記名證券

第八章 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及運送人

第一節 總則

第二節 代辦人

第三節 仲立人

第四節 取引所仲立人

第五節 仲買人

第六節 運送取扱人

第七節 運送人

第八節 旅客運送

第九章 賣買

第一節 賣買契約

第二節 供給契約

第三節 賣買

第四節 取戻權

第十章 信用

第一節 消費貸借

第二節 信用約束

第三節 寄託

第十一章 保險

第一節 總則

第二節 火災及地震ノ保險

第三節 土地ノ產物ノ保險

第四節 運送保險

第五節 生命保險、病傷保險及年金保險



第六節 保險營業ノ公行

- 第十二章 手形及小切手
- 第一節 爲替手形
- 第一款 提出
- 第二款 裏書
- 第三款 引受
- 第四款 質押引受
- 第五款 保費
- 第六款 支拂
- 第七款 榮票支拂
- 第八款 償還請求
- 第九款 拒證書作成
- 第十款 戻爲替手形
- 第十一款 資金
- 第十二節 約束手形
- 第十三節 小切手
- 第二編 海商
- 第一章 船舶
- 第一節 船舶所有者
- 第二節 船舶所有者ノ權利及義務
- 第三章 船舶債權者
- 第四節 船長及海員
- 第一節 船長
- 第二節 海員
- 第五章 運送契約
- 第一節 船舶貨物運送契約
- 第二節 船荷證書
- 第三節 運送貨
- 第四節 旅客運送
- 第六章 海損
- 第七章 冒險貸借
- 第八章 保險
- 第一節 保險契約ノ取結
- 第二節 保險者及被保險者ノ權利義務
- 第三節 委棄
- 第九章 時効
- 第三編 破産
- 第一章 破産宣告
- 第二章 破産ノ効力
- 第三章 別除權

第四章 保全處分  
第五章 財團ノ管理及交換  
第六章 債權者  
第一節 債權ノ届出及確定  
第二節 特種ノ債權者  
第三節 債權者集會  
第七章 協議契約  
第八章 配當  
第九章 有罪破産  
第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果  
第十一章 支拂手續

商法

- 第一條 商事ニ於テ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習及民法ノ成規ヲ適用ス
- 第二條 特種ノ商事又ハ商人ノ爲メニ發布シタル法律、命令及規則ノ効力ハ本法ニ因リ妨ケラル、コト無シ
- 第一編 商ノ通則
- 第一章 商事及商人
- 第三條 商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタルニ拘ハラズ總テノ取引及ヒ其他本法ニ規定シタル事項ヲ謂フ
- 第四條 商取引トハ買賣、質貸又ハ其他ノ取引ノ方法ニ因リ產物、商品又ハ有價證券ノ轉換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ爲メニスル旨趣ニテ直接又ハ間接ニ行フ所ノ總テノ權利行為ヲ謂フ殊ニ左ニ掲ケルモノハ商取引ニ屬ス
- 第一 產物ノ交換、販賣ヲ目的トスル取引
- 第二 製造、工業及ヒ手職業ニ係ル作業及ヒ取引
- 第三 人及ヒ物ノ運送ニ係ル作業及ヒ取引
- 第四 航漕ニ係ル作業及ヒ取引
- 第五 建築ニ係ル作業及ヒ取引
- 第六 銀行營業ニ係ル作業及ヒ取引
- 第七 流通シ得ヘキ信用證券ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ取引
- 第八 商ノ爲メニスル又ハ受ケル倉庫寄託及ヒ其他ノ寄託ニ係ル作業及ヒ取引
- 第九 船舶ノ賃賃、賃入、抵當、構造、修繕、裝裝及ヒ乗組ニ係ル作業及ヒ取引
- 第十 取引所ノ取引
- 第十一 保險ニ係ル作業及ヒ取引
- 第五條 其他左ニ掲ケルモノハ之ヲ商取引ト看做ス
- 第一 公ニ明キタル店舖、帳簿若クハ其他ノ營業所ニ於テ又ハ公告ヲ爲シテ營業ニ關係及ヒ利息若クハ其他ノ報酬ヲ受ケル金銀貸付
- 第二 新聞紙及ヒ其他ノ定期印刷物ノ發行
- 第三 商事ニ於ケル各般ノ代理及ヒ委任

第四 公ナル周旋所及ヒ代辦ノ營業

- 第五 公ナル共飲場及ヒ遊娯場ノ營業
- 第六 受買作業ノ引受
- 第六條 商人其營業上ニ於テ取結ヒ又ハ他ノ商人若クハ作業人ト取結ヒタル取引ハ反對ノ證ナキトキハ之ヲ商取引ト看做ス
- 第七條 左ニ掲ケルモノハ之ヲ商取引ト看做ス
- 第一 所有地又ハ借地ヨリ收穫シタル產物ヲ賣ルコト但營業ノ目的ヲ以テセサルモノニ限ル
- 第二 月戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣リ又ハ勞役ヲ供スルコト但常設ノ營業所ヨリ出ツルモノハ此限ニ在ラス
- 第三 専ラ勞力賃ノミヲ得ル目的ニテ物品ヲ製作シ又ハ勞役ヲ爲スコト
- 第四 他人ノ爲メニ動作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關スル規定ヲ獨ケサルトキニ限ル
- 第八條 不動産ニ關スル權利ノ目的トスル契約ハ商取引トセズ但射利ヲ旨趣トスル買得及ヒ轉賣ハ此限ニ在ラス
- 第九條 商人トハ總テ商業ヲ營ム者ヲ謂ヒ商業ヲ營ムトハ營業トシテ商取引ヲ爲スコトヲ謂フ
- 農作、牧畜、養蠶、狩獵、採掘及ヒ採掘ノ業ヲ營ムハ商業ヲ營ムト看做サズ
- 第十條 契約ニ因リ獨立シテ債務ヲ負フコトヲ得ル各人ハ一時ノ商取引ナル時ノ商業ナルトハ問ハズ總テ商ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 商業登記簿ニ其登記ヲ受ケ得シ
- 第十二條 男女ヲ問ハズ未成年者ニシテ年滿十八歳ニ滿テ且父、母又ハ後見人ノ承諾ヲ得テ獨立ノ生計ヲ立ツル者ハ商ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 右ノ未成年者自己ノ爲メ商ヲ爲サント欲スルトキハ前項ノ要件ヲ明記シ且自己及ヒ父、母又ハ後見人ノ署名捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ提出シ登記ヲ受ケ可シ然ルトキハ其登記ノ日ヨリ商事ニ於テ權利及ヒ義務ニ關シ成年者ト全ク同一ナルモノトス
- 第十四條 婦ハ其夫ノ明命又ハ默示ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲スコトヲ得此承諾ハ其夫ニ遺棄セラレ又ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケサルトキハ之ヲ得ルコトヲ要セス
- 第十五條 婦カ其夫ノ商業ヲ助クルノミニテハ之ヲ商人ト看做サズ
- 第十六條 第十三條ノ規定ニ付テハ婦ハ商事ニ於テハ獨立人ノ總テノ權利ヲ得義務ヲ負フ
- 第十七條 婦ハ商ノ債務ニ付テハ婦ノ財產ニ對シテ夫ニ屬スル管理權又ハ其他ノ權利アルニ拘ハラズ自己ノ全財產ヲ以テ其責任ヲ負フ但夫ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲ス場合ニ於テ夫婦間ニ財產共通ノ存スルトキハ共通財產モ亦其責任ヲ負フ
- 第十八條 夫婦ノ一方カ商ヲ爲シ夫婦間ニ財產共通ヲ爲サ、レトキ又ハ之ヲ解キタルトキハ商業登記簿ニ登記ヲ受ケタル爲メ其事實ヲ管轄裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス
- 第十九條 夫婦ハ共同ニ商業ヲ營ムル場合ニ於テ夫ハ法律上特ニ規定セラレタル別段ノ資格ヲ有セザル者ノ爲シタル總テノ商取引ハ無効ナリ
- 第二十條 公務ヲ帶フル者商業ヲ營ムコトヲ禁セラレタル場合ト雖モ其者ノ爲シタル取引ハ此理由ノ爲メ無効ト爲ルコト無シ
- 第二十一條 一方ノ者ノミニ對シテ商取引タル取引ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス但本法

中商人ノ身分ニ關スル規定及ヒ反對ノ意ヲ表シタル規定ハ此限ニ在ラス

- 第十七條 會社及ヒ其他ノ法人カ商業ヲ營ムトキハ亦商業ニ付キ設ケタル規定ヲ遵守スルコトヲ要ス
- 第二章 商業登記簿
- 第十八條 商號後見人、未成年者、婚姻契約、代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所ノ行フ
- 第十九條 前項ノ營業所又ハ住所ノ他ノ地ニ移シタルトキハ既ニ登記シタル事實カ尚ホ在スル場合ニ限リ移轉地ニ於テモ亦其登記ヲ受ケ可シ
- 第二十條 登記ハ其度毎ニ裁判所ヨリ其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速ニ之ヲ公告ス可シ其新聞紙ハ一周年ノ間ニ之ヲ定メ置クコトヲ要ス若シ其他ニ發行ノ新聞紙ナキトキハ其公告ノ方法ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル又各人ニ商業登記簿ノ縱覽ヲ許シ且手数料ヲ納ムル者ニハ照證シタル原本ヲ請フコトヲ許ス
- 第二十一條 登記及ヒ公告ヲ受ケル毎ニ手数料ヲ納メシム其額ハ勅令ヲ以テ一定平等ニ之ヲ定ム
- 第二十二條 登記ヲ受ケルコトハ當事者ノ署名捺印シタル陳述書ヲ以テ自己又ハ委任狀ヲ受ケタル代理人ヨリ届出ツルコトヲ要ス其登記ハ即日又ハ翌日中ニ之ヲ爲ス
- 第二十三條 若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ當事者ヨリ其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
- 第二十四條 登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シ
- 第二十五條 登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モモ己レノ過失ニ非サルコトヲ證シ得ルニ非サルハ之ヲ知ラサルヲ以テ己レヲ保護スルコトヲ得然レトモ其事項ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハズ其効力ヲ致シトモ權利關係カ登記ニ因リ始メテ生ス可キ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ム
- 第三章 商號
- 第二十六條 各商人ハ商號ヲ有シ總テ商業上ニ於テ自己ヲ表スル爲メ之ヲ用ユ若シ一人ニシテ資本ヲ分子數商ノ營業ヲ爲ストキハ其各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルコトヲ要ス
- 第二十七條 商號ハ從來屋號ト稱スルモノヲ以テスルヲ通例トスト雖モ營業者ノ氏又ハ氏名ヲ以テスルモ妨ナシ
- 第二十八條 商號ノ記號ヲ請ハントスル者ハ商業登記簿ニ登記ヲ受ケタルコトヲ得支店アルトキハ其支店ニ付テモ亦同シ
- 第二十九條 登記ノ變更又ハ取消ハ廢止ハ速ニ其登記ヲ受ケ可シ
- 第三十條 商號ハ登記ニ因リ同一營業ニ付キ一地域内ニ於テ其專有ノ權利ヲ取得シ他人之ヲ用ユルコトヲ得但本法施行以前ヨリ有スル商號ハ從前ノ營業ヲ變セサルモノニ限リ一地域内ニ於テ同一ナルモ妨ナシ
- 第三十一條 相續ニ因リテ商業ヲ引受ケル者又ハ契約ニ因リテ商業ト共ニ商號ヲ引受ケル者ハ第七十五條ニ規定シタル場合ヨリ除外從前ノ商號ヲ總テ用スルコトヲ得
- 第三十二條 商號ハ其營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第三十三條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第三十四條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第三十五條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第三十六條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第三十七條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第三十八條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第三十九條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十一條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十二條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十三條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十四條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十五條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十六條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十七條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十八條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第四十九條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十一條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十二條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十三條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十四條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十五條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十六條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十七條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十八條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第五十九條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十一條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十二條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十三條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十四條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十五條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十六條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十七條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十八條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第六十九條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十一條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十二條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十三條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十四條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十五條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十六條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十七條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十八條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第七十九條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十一條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十二條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十三條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十四條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十五條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十六條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十七條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十八條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第八十九條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十一條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十二條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十三條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十四條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十五條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十六條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十七條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十八條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第九十九條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 第一百條 營業ト共ニシテ非サレバ他人ニ讓渡スルコトヲ得







第三 會社ノ商標及ヒ營業所

第四 各社員ノ氏名、住所

第五 設立ノ年月日

第六 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第七 業務擔當社員ヲ特定シタルトキハ其氏名

第八 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シタルトキハ七日内ニ其登記ヲ受ク可シ

第八十一條 會社ハ登記前ニ開業スルコト得ズ之ニ違フトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ其營業ヲ差止ム但命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六箇月内ニ開業セザルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効ナリ

第二款 會社契約ノ變更

第八十三條 會社契約ハ總社員ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ズ其承諾ナキトキハ契約ノ從前ノ規定ニ從テ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行セザリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シテ其効用ヲ致サシムルコトヲ得ズ

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ本法及ヒ會社契約ニ因リテ定メラルモノトス

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモ之ニ異ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ニ施行ニ關スル事項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 會社ノ業務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保衛スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ業務擔當ノ任アル社員ノ承諾ヲ要ス

第八十九條 社員ノ職務ハ其出資ノ額ニ應ジテ定メラルモノトス

第九十條 業務擔當ノ任ナキ社員ハ何時ニテモ業務ノ實行ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ檢査シ其真偽ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第九十一條 業務擔當ノ任アル社員ハ代務ノ委任又ハ解任ヲ爲ス權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シテ正整ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勤勉注意ヲ爲ス義務アリ其義務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金銀又ハ有價物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社ノ財産目録ニ記入シ會社ノ所有ニ歸ス

第九十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ルルコト能ハサルトキハ除名セララルモノトシ看做ス但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ルルコトキハ此限ニ在ラス

第九十五條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ルルコトキハ會社ハ之ヲ除名スルコト得ズ但年百分ノ七ノ利息ヲ拂ハシムルコトヲ得

第九十六條 社員ハ契約上ノ額外ノ出資ヲ増シ又ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ補充スル義務ナシ

第九十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非ズシテハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルコトヲ得ズ

第九十八條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非ズシテハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己ノ地位ニ代ハラシムルコトヲ得ズ

社員ノ相續人又ハ承継人ハ契約ニ於テ反對ヲ明示セザルトキハ其社員ノ地位ニ代ハルコトヲ得

第九十九條 會社財産ニ關スル物ハ社員ノ債權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルコトヲ得ズ但差入ルルニ於テ其物ニ付テ第三者ノ爲メ權利ヲ設定セララルトキハ此限ニ在ラス

第一百條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ得ヘキ利息又ハ配當金ノミヲ會社ニ對シテ要求スルコトヲ得

然レトモ社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解散ノ場合ニ非ズシテハ之ヲ要求スルコトヲ得ズ

第一百八條 會社ニ對スル債權ト社員ノ債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債權トノ相續ハ會社財産ノ分割前ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第一百九條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者其會社財産ヨリ得ヘキ償額ヲ減損セラル又ハ支障セララルトキハ減少ノ時ヨリ二箇年内ニ在テハ其減少ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第五款 社員ノ退社

第二十條 社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ總社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其承諾ヲ要セシテ任意ニ退社スルコトヲ得

其退社ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲シタルトキハ事業年度ノ末ニ限ル但急遽ニ退社スル可キ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 右ノ外社員ハ左ノ條件ニ因リテ退社ス

第一 除名

第二 死亡但社員ノ地位ニ代ハル可キ相續人又ハ承継人ナキ時ニ限ル

第三 破産

第四 能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第二十條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日内ニ其理由ヲ附シタル登記ヲ受ク可シ

第二十三條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作リタル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ其持分ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承継人ニ拂渡スコトヲ要ス

退社員ノ取引ニシテ未タ了セザルモノハ其了了ノ後ニ計算スルコトヲ得

第二十四條 退社員ノ持分ノ價值ハ特約アルニ非サレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハズ金銀ノミニテ之ヲ拂渡ス

努力ノ出資又ハ其他退社員ト共ニ終止スル出資ニ付テハ特約アルニ非サレハ之ニ對シテ報償ヲ爲ス義務ナシ

第二十五條 退社員ハ退社員ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二箇年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ

第九十八條ノ場合ニ於テ第三者ヲシテ己ノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦前項ノ適用ス

第六款 會社ノ解散

第二十六條 會社ハ左ノ條件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立時期ノ満了

第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

第三 總社員ノ承諾

第四 會社ノ破産

第五 裁判所ノ命令

第二十七條 第六十七條ニ類ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルコト能ハズ又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得

得得總社員ノ承諾ヲ得ルニ非ズシテハ業務ヲ擔當スル權利ナシ

第九十九條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ讓渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シテ其効ナシ

第一百條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムルトキハ其關係ハ共業組合ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第一條 社員カ會社ニ消費費ヲ爲シ又ハ會社ノ爲メニ立替金ヲ爲シタルトキハ年百分ノ七ノ利息ヲ求ムルコトヲ得又社員カ業務施行ノ爲メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得

第一百二條 會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキトキハ社員ハ業務施行ノ勤勞ニ付キ其報酬ヲ求ムルコトヲ得然レトモ努力ヲ出資ト爲シタル社員其負擔シタル出資外ニ爲シタル努力ニ付テハ相當ノ報酬ヲ求ムルコトヲ得

第一百三條 社員カ會社ノ爲メニ受取リタル金銀ヲ相當ノ時日内ニ會社ニ引渡サズ又ハ會社ノ金銀ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ對シテ年百分ノ七ノ利息ヲ拂ヒ且如何ナル損害ヲモ賠償スル義務アリ

第一百四條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ會社ノ商標類ニ關スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得ズ之ニ背キタルトキハ會社ハ其標ニ從ヒ其社員ノ姓名及ヒ其取引ヲ會社ニ引受ケ尚ホ其標ノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第一百五條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割合ハ契約ニ於テ他ノ標準ヲ定メタルトキハ其出資ノ額ニ準テ

第一百六條 社員カ業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詐欺ヲ行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚シク缺キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ且損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第一百七條 社員カ會社契約ニ依リ又ハ本法ノ規定ニ依リテ會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲及ヒ取引ハ各社員互ニ之ヲ承認スル義務アリ

第四款 第三者ニ對シテ社員ノ權利義務

第一百八條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ

第一百九條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル社員裁判上ト裁判外トノ間ハ之ヲ主張シ又ハ有效ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第一百十條 第三者ニ對シテ會社ノ義務ハ第三者ヨリ業務擔當ノ任アル各社員ニ對シテ其履行ヲ求ムルコトヲ得

第一百十一條 業務擔當ノ任アル社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其効ナシ

第一百十二條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財産之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財産ヲ以テ不分ニ之ヲ負擔ス

第一百十三條 社員ニ非ズシテ商號ニ其氏ヲ表スルコトヲ承諾シ若クハ之ヲ表スルニ任セ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ與カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ負フ

第一百十四條 商業使用人又ハ代務人ハ其給料ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配當ニ因リテ受ケルモノト雖モ前條ノ者ト同視セズ

第一百十五條 新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ定ナキトキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務ニ付テモ責任ヲ負フ

會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名ス可キコトヲ他ノ總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 第九十六條ノ第一號第二號ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニテ會社ヲ保護スルコトヲ得但社員ノ一分ニテ保護シタルトキハ其離脱シタル社員ハ退社シタルモノト看做ス

第二十九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數人ヲ任シ七日内ニ解散ノ原因、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ク可シ

第三十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ了シ會社ノ義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ起シテ營業ヲ保護シ又ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得又清算人ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 清算人ノ權ハ社員ノ制限スルコトヲ得且重要ナル事由ニ基キ社員ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得ズ但命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第五條及ヒ第一百二十四條ノ規定ニ準シ會社ノ清算ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ自由ト爲リタル財産ハ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ得

第三十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ了スルニ要セサル會社財産ニ限リテ

第三十四條 解散シタル會社ノ商業讓渡及ヒ其他ノ書類ハ社員第三十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分ス

第三十五條 會社ノ義務ニ對シテ社員ノ無限責任ハ其義務ニ付テ五箇年未滿ノ時効ノ定ナキトキニ限リ解散後五箇年ヲ滿了ニ因リテ時効ニ漏ル但債權者カ未タ分配セララル會社財産ニ對シテ請求ヲ爲スコトキハ此限ニ在ラス

第二節 合資會社

第三十六條 社員一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任ハ金銀又ハ有價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス

合資會社ノ社員ノ數ハ之ヲ制限セズ

第三十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規定ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從テ

第三十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シタルモノ、外尚ホ左ノ事項ヲ掲ケルコトヲ要ス

第一 合資會社ナルコト

第二 各社員ノ總額

第三 各社員ノ出資額

第四 無限責任社員アルトキハ其氏名

第五 業務擔當社員又ハ取締役アルトキハ其氏名及ヒ其責任ノ有限又ハ無限ナルコト

第三十九條 商號ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ズ但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又商號ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ

若シ商號ニ社員ノ氏ヲ用井タルトキハ其社員ハ此力爲メ當然會社ノ義務ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ

第四十條 無限責任ノ社員、取締役ヲ除ク外社員ハ自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ會社

ノ義務ヲ負擔スルコトヲ得

第七



ノ商標ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カレトシテ...

第百四十二條 各株主ハ其所有ノ株式ノ...

第百四十三條 業務執行ノ任アル社員又ハ...

第百四十四條 業務執行ノ任アル社員又ハ...

第百四十五條 有價証券ノ買入ハ業務執行ノ...

第百四十六條 債權ノ行使ニ於テハ...

第百四十七條 債權ノ行使ニ於テハ...

第百四十八條 業務執行ノ任アル社員又ハ...

第百四十九條 總會ノ召集スルニハ...

第百五十條 事業年度ノ終リタル後...

第百五十一條 臨時總會ニ於テ...

第百五十二條 前條ニ掲ケタル決議ニ...

第百五十三條 利息又ハ配當金ハ...

第百五十四條 會社ノ資本ヲ株式ニ分テ...

第百五十五條 會社ノ資本ヲ株式ニ分テ...

第百五十六條 株式會社ハ七八人以上ヲ...

第百五十七條 株式會社ハ四人以上ニ...

第百五十八條 日論見書ニ記載スル可キ...

第一 株式會社ノ目的

第二 會社ノ商標及ヒ營業所

第三 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第四 各株主ノ付手拂込ミタル金額

第五 取締役ノ氏名、住所

第六 取締役ノ氏名、住所

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八 設立免許ノ年月日

第九 開業ノ年月日

第十 會社ノ商標及ヒ株式名簿

第十一 各株主ノ氏名、住所

第十二 各株主ノ付手拂込ミタル金額

第十三 各株主ノ所得及ヒ配當ノ年月日

第十四 株式

第十五 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定...

第十六 株式ハ一様額ニ依リテ發行スル...

第十七 株式ハ別別及ヒ別名ニ依リテ發行...

第十八 株式ハ全額拂込以前ニ於テハ...

第十九 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十一 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十二 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十三 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十四 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十五 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十六 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

月十六日第一千六百三十四號附錄

第百五十六條 株式會社ハ七八人以上ヲ...

第百五十七條 株式會社ハ四人以上ニ...

第百五十八條 日論見書ニ記載スル可キ...

第一 株式會社ノ目的

第二 會社ノ商標及ヒ營業所

第三 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第四 各株主ノ付手拂込ミタル金額

第五 取締役ノ氏名、住所

第六 取締役ノ氏名、住所

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八 設立免許ノ年月日

第九 開業ノ年月日

第十 會社ノ商標及ヒ株式名簿

第十一 各株主ノ氏名、住所

第十二 各株主ノ付手拂込ミタル金額

第十三 各株主ノ所得及ヒ配當ノ年月日

第十四 株式

第十五 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定...

第十六 株式ハ一様額ニ依リテ發行スル...

第十七 株式ハ別別及ヒ別名ニ依リテ發行...

第十八 株式ハ全額拂込以前ニ於テハ...

第十九 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十一 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十二 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十三 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十四 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十五 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十六 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十七 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十八 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第二十九 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十一 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十二 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十三 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十四 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十五 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十六 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十七 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十八 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第三十九 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第四十 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...

第四十一 株式ハ額面額及ヒ本株券ハ登記...











第三百五十六條 契約其他ニ履行期日ノ定ナクシテ債務者其履行ヲ相當ノ期間ニ爲サレトキハ債權者ハ滿期日ヲ定ムルコトヲ得

第三百五十七條 別段ノ履行地ヲ定メス又ハ取引ノ性質若クハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ推知スルコトヲ得サレトキハ履行地債權者若クハ受取ノ權利アル者ノ指定シタル地若シ指定セサルトキハ其所在地ニ營業場ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第三百五十八條 債務者ノ日據セル送付ノ義務ハ債權者ノ指定シタル運送場若シ指定セサルトキハ滿期ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ履行シタルモノトス

第三百五十九條 當事者雙方カ同地ニ住スル場合ニ於テ別段ノ契約ナキトキハ債務者カ債務ノ目的物ヲ送付スルコトキヤ又ハ債權者カ之ヲ取寄スルコトキヤハ其地ノ慣習又ハ取引ノ性質ニ依リテ之ヲ定ム

第三百六十條 別段ノ契約ナキトキハ債務ノ目的物ノ送付ハ債權者ノ危險ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トス但債權者カ自己又ハ其使用人ノ過失ニ付テ責任ハ此カ爲メニ妨ケラレハコト無シ

第三百六十一條 度量衡ノ距離ノ期間ノ休日ノ支拂貨幣ノ本位或ニ種類其他履行ノ科目ハ履行地ニ行ハルニ定メテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ高價償アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六十二條 債權者其他目的物ノ特定セサル債務ニ付テ履行ノ目的物ヲ定ムルコトハ其目的物ノ尚ホ存在スル場合ニ限リ疑ハシキトキハ債務者ノ擇ムニ任ス

第三百六十三條 債權者カ其債務ノ履行ヲ正當期日ニ爲サレトキハ債權者ハ契約ヲ解除シ又ハ債權賠償若クハ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百六十四條 債權賠償ハ金銭ニ係ル債務ニ付テハ債務額ノ外滿期日ヨリ其債務ヲ算濟スル日ヨリ起算ス但利息ノ支拂フニ在リテ總テ其他債務ニ付テハ債務ノ目的物カ滿期日ノ後ニ有ル最長ノ價額ト其價額ヲ定メタル時ヨリ算濟ノ日ヨリ起算ス但利息ノ支拂フニ在リ但債權者ニ於テ債務ノ目的物カ滿期日ニ有ル最長ノ價額ト此日ヨリ起算ス但利息ノ支拂フニ在リ但債權者ニ於テハ此限ニ在ラス

第三百六十五條 債權者ハ債務者ノ過失ヲ證明シ又ハ債務者ノ不履行ニ因リ自己ニ加ヘラレタル損害ヲ證明スルコト無クシテ債權賠償ヲ求ムルコトヲ得但債務ノ性質及ヒ範圍ニ因リテ債務者カ不履行ニ付テ責任ヲ負フトキニ限ル

第三百六十六條 債權者又取引所ニ於テ買入物ニ在リテ其取引所相持ニ加フルニ遲延ニ因リテ生シタル費用及ヒ立替金ヲ以テシタルモノトス

第三百六十七條 第三百六十四條ニ掲ケタル承諾ヲ遲延シタル債務者ハ亦遲延ニ因リテ生シタル費用及ヒ立替金ヲ債務者ニ賠償ス可シ

第三百六十八條 故意又ハ過失ノ行爲ニ因リテ不適法ニ損害ヲ他人ニ加ヘタル者ハ其損害ニ付テ十分ノ賠償ヲ爲ス義務アリ

第三百六十九條 損害賠償ハ生シタル損失及ヒ失ヒタル利益ノ算入ヲ包括ス

第三百七十條 利益トハ一方ノ加害ノ行爲ヲカリシトキハ他方カ爲シ得ヘカリシコトヲ證明シ得ヘキ取得ヲ謂フ此取得ハ豫見シ得ヘカリシモノト否ト又ハ通常ナリシモノト否トヲ問フコト無シ

第三百七十一條 賠償セシメ及ヒ債權上ノ利息ノ手續料又ハ口銭ヲ求ムル權利アリ

第三百七十二條 商取ヨリ生シタル債權ノ擔保ノ爲メニ動産債權ノ設定ハ總テノ場合ニ於テ擔保契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ其契約ハ擔保セラル可キ債權ノ年月日、數額並ニ其合法ノ原因及ヒ質權設定ノ年月日或シ其目的物ノ逐一記載セサルトキハ無効トス

第三百七十三條 質權設定ニ因リ債權者ハ質物ヲ質押シテ其債權ノ擔保ニ充テル權利ヲ取得ス但質物ノ占有カ自己又ハ其代人ニ移リタルトキニ限ル

第三百七十四條 倉庫證書、船荷證書其他證書ヲ以テ所載物品ノ處分權ヲ移轉スルコトヲ得此證書ノ裏書裏渡ハ物ノ占有ノ移轉ト同一ナリトス

第三百七十五條 指圖證券カ質權設定ノ目的物ナルトキハ其證券ニ質入ノ目ヲ附記シテ債權者ニ裏書裏渡ス可シ

第三百七十六條 債權者カ其債務ノ擔保ヲ遲延シタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シテ訴ヲ起スコトヲ得但債權者ヨリ遲延ナク債務者ニ之ヲ通知ス可シ

第三百七十七條 債權者カ其債務ノ擔保ヲ遲延シタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シテ訴ヲ起スコトヲ得但債權者ヨリ遲延ナク債務者ニ之ヲ通知ス可シ

第三百七十九條 二人以上ノ質權者中一人ハ現物ヲ占有シ他ノ者ハ其物ニ付テノ處分證券ヲ占有スルトキハ孰レニテモ其占有ノ優先權ヲ得タル者質押ノ優先權ヲ有ス

第三百八十條 動産ニ付テノ有効ナル質權ハ質權者ノ善意ナルトキニ限リ所有若クハ於テ又ハ物ヲ處分スル爲メ所有若クハ委託セラレタル代人ニ於テ又ハ正當ナル取得ニ因リ物ノ占有ヲ得タル各人ニ於テ之ヲ設定スルコトヲ得但無記名證券ヲ除ク外其物カ盜品又ハ紛失品ナルトキハ此限ニ在ラス

第三百八十一條 所有若クハ非所有ノ質權者ノ質入シタル物ハ質押執行ノ終ニ至ルマテハ所有若クハ質權者二十分ノ利益ヲ爲シテ其取戻ヲ求ムルコトヲ得

第三百八十二條 有効ノ質入シタル物ヲ質押シ其代價ヲ支拂アリタルトキハ從來其物ニ付テ存セル所有權又ハ質權ハ總テ消滅ス

第三百八十三條 質權ハ第三者ニ於テモ債務者ノ爲メ之ヲ設定スルコトヲ得

第三百八十四條 質權ハ將來ノ債權ノ爲メ設定スルコトヲ得

第三百八十五條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百八十六條 履行又ハ賠償ヲ求ムル債權者ノ權利ハ違約金ノ爲メニ廢止セラレスト雖モ疑ハシキトキハ違約金ト共ニ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百八十七條 過失アル不履行ニ因リテ債權者ニ加ヘタル損害カ違約金ノ額ヲ超ユルトキハ違約金ノ外此超過額ニ付テ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百八十八條 違約金ノ契約ニシテ差違取引又ハ不法ナル博奕若クハ賭博ノ取引ヲ廢止セントスル目的ヲ以テスルモノハ無効トス

第三百八十九條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十一條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十二條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十三條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十四條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十五條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十六條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十七條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十八條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百九十九條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第四百條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス







第四百四十二條 仲立人ノ手數料ハ別段ノ定例又ハ慣習ノ存スル場合ヲ除ク外其取引終了ノ後ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

手數料ノ額ハ仲立人組合定款又ハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム

手數料ハ別段ノ契約又ハ慣習ナキトキニ限り委任者雙方ヨリ各其半額ヲ拂フヲ通例トス

手數料ハ仲立人ノ過失ニ因リテ其契約ノ相當ニ履行セザルトキハ之ヲ拂フコトヲ要セス

第四百四十三條 仲立人カ適法ノ手數料ヲ超過シタル報酬又ハ恩與ヲ委任者ノ一方ヨリ受ケタルトキハ他ノ一方ニ於テ其取引ヲ無効ナリト陳述スルコトヲ得

第四百四十四條 取引所仲立人

第四百四十四條 取引所ハ取引所定款ノ規定ニ從ヒテ取引ヲ爲ス所ノ公設場トス

第四百四十五條 相應ノ商アル地ニ於テハ其地又ハ其一區域内ノ商人ニ於テ一般又ハ或ル部類ノ商取引ノ爲メ官ノ認可ヲ得テ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第四百四十六條 取引所ハ取引場ヲ定メ定款ヲ設ケ及ヒ取引役ヲ置ク可シ此諸件及ヒ其變更ニ付テハ官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四百四十七條 取引所ノ事務及ヒ章程ハ特別ノ法律・命令アルニ非サレハ定款ヲ以テ之ヲ定ム若シ其定款ニキハ取引役其定款ニ準據シテ之ヲ定ム

第四百四十八條 取引所ノ決議ヲ不當又ハ有害ナリトシテ異議ヲ述フル者アルトキハ農商務省ニ於テ雙方ヲ審訊シタル後其理由ヲ示シテ之ヲ裁決ス

第四百四十九條 或ル商品ヲ小賣ノ外ハ取引所ニ非サレハ商ヲ得ザルコトヲ官ヨリ規定スルコトヲ得

此規定ニ違フ者ハ二罰以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四百五十條 取引所ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第四百五十一條 取引所仲立人ハ特ニ取引所仲立人トシテ官ノ認可ヲ受ケ且保證金ヲ提出シタル後取引役ヨリ其職ニ充テラル、モノトシ其仲立人ハ取引所ノ定款其他ノ章程ニ遵守スルコトヲ得

第四百五十二條 仲立人組合ノ存在スル地ニ在テハ其組合取引役ノ中少ナクトモ一人ヲ取引所取引役ニ選ム可シ

第四百五十三條 取引所ハ其取引ノ範圍ニ應ル員數ノ仲立人ヲ登ク可シ

第四百五十四條 本法中仲立人ニ係ル規定ハ取引所仲立人モ之ヲ遵守ス可シ

第四百五十五條 仲立人、取引所仲立人及ヒ取引所ハ大藏省及ヒ農商務省ノ監督ヲ受ク

第五節 仲買人

第四百五十六條 仲買人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商業ヲ営ム商人タリ

第四百五十七條 仲買人ノ第三者ヲ取引タル取引ノ効力ハ第三者ニ對シテハ委任者ノ委任又ハ承諾ニ關係セス

第四百五十八條 仲買人ハ委任者ノ與ヘタル委任ヲ遵守スル義務アリ其委任ノ陸越其他ノ過失ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テハ委任者ニ對シテ其責ニ任ス

第四百五十九條 仲買人事務權限ヲ可カラザリシトモ、委任者ノ爲メ更ニ大ナル損害ヲ防止シタルコトヲ證明スルトキハ委任者陸越ノ責ヲ免ル可シ但委任者カ明テ又ハ默テニテ其委任ヲ必行ス可キコトヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十條 仲買人ハ委任者陸越ニ因リテ委任者ノ損失ヲ爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ

差額ヲ自己ニ負擔スルヲ以テ委任者陸越ノ責ヲ免カル、コトヲ得ス

第四百六十一條 仲買人ハ委任ニ背クニ因リテ委任者ノ利益ヲ爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ差額ヲ自己ノ有ニ歸スルコトヲ得ス

第四百六十二條 第四百九條ノ規定ハ仲買人ニモ之ヲ適用ス殊ニ仲買人ハ取引履行ノ前後ヲ問ハズ委任者ニ對シテ必要ノ報知ヲ爲シ且運送ノ貯蔵・保險・寄賣其他總テ商業上ノ作用ニ付キ十分ノ所行者ノ利益ヲ謀ル可シ

第四百六十三條 仲買人ハ必要ノ前借金ヲ運送ナク交付セラレ又ハ取引ヨリ生ス可キ自己ノ請求ニ對シテ引當ラ有シ者カ擔保ヲ得タルトキハ總テ其營業ニ屬スル委任者引受ケタル義務アリ

第四百六十四條 仲買人委任ノ引受ケサレタルトキハ直ニ之ヲ委任者ニ通知シ且委託ノ貨物ヲ適當ニ保存スル義務アリ若シ其通知ヲ爲サ、ルトキハ委任者ノ責ニ任ス

第四百六十五條 仲買人ハ別段ノ契約ナキトキハ委任者ニ又ハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前借金ヲ爲ス義務ナシ然レトモ委任者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ其承諾ナキモ商慣習アルトキハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者ノ前借金ヲ爲シ又ハ信用ヲ與フル權利アリ

第四百六十六條 仲買人ハ第四百五十五條ノ規定ニ從ヒ委任者ノ支拂力ニ付キ委任者ニ對シテ責任ス然レトモ其責任ハ第四百五十五條ノ規定ニ從ヒ委任者ノ支拂力ニ付キ委任者ニ對シテ責任ス

第四百六十七條 委任者ハ仲買人ニ與ヘタル委任ノ未タ履行セザルモノニ限り何時ニテモ之ヲ廢止シ又ハ變更スルコトヲ得

仲買人ハ第四百六十三條ノ規定ニ依リテ委任者引受ケ拒ミ得ルトキニ限り解約ヲ申込ム權利アリ但正當ニ其申込ヲ爲シタル後ト雖モ惡意又ハ怠慢ニ付テハ委任者ニ對シテ仍ホ責任ニ任ス

第四百六十八條 仲買委任ノ關係ハ一方ノ破産ニ因リテ終ル又死亡其他委任者ノ死亡スルコト能ハサル事由ニ因リテハ此事由ニ基キテ其關係ヲ解クコトヲ一方ヨリ明言シタルトキニ限り終ルモノトス

第四百六十九條 仲買人ハ仲買取引ノ外自己ノ計算ヲ以テ同種類又ハ他種類ノ取引ヲ爲ス權利アリ

前項ノ商人ニシテ仲買取引ノ商業ト爲サ、ル者ハ第四百六十三條ノ規定ヲ適用セス

第四百七十條 仲買人ハ委任者ニ於テ反對ノ明言ヲ爲サ、ルトキハ其受ケタル委任ヲ買主、買主又ハ其他ノ者トシテ自己ノ計算ヲ以テ履行スルコトヲ得然レトモ委任者ニ對スル自己ノ權利及ヒ義務ハ變更スルコトヲ無シ

第四百七十一條 前條ノ場合ニ於テハ仲買人ヨリ自己ノ計算ヲ以テ引受ケタル買主ノ通知ヲ委任者ニ發送シタル時直ニ其委任者履行シタルモノト看做ス

第四百七十二條 仲買人ハ委任者履行ノ後之ヲ委任者ニ通知シ其取引ノ得金ヨリ自己ノ取分ヲ引去リテ之ヲ委任者ニ支拂ヒ又ハ其計算ニ立ツ可シ

第四百七十三條 委任者ノ計算ヲ以テ買主レ又ハ引受ケタル商品ハ委任者ニ他ノ定ナキトキハ仲買人レハ明テ委任者ニ付シ其取分アルマテ適當ニ貯蔵ス可シ其商品ノ運送ノ開始スル義務アルハ明テ委任者レハ自己ノ責任ニ限ルコトヲ無シ然レトモ其承諾ナキモ、コトヲ無シ

第四百七十四條 仲買人ノ取引ニシテ委任者ノ承諾ヲ得タルトキモ、ハ其承諾ナキニ拘ハラズ仲買人ノ計算ニ於テハ有効ト然レトモ第三百八十一條ノ規定ハ此力爲メニ妨ケラル、コトヲ無シ又仲買人ハ委任者ニ總テノ損害ヲ賠償ス可シ

第四百七十五條 仲買取引ヨリ生シタル債權及ヒ債務ハ仲買人ノ直接ノ債權及ヒ債務タルヲ通例トス然レトモ仲買人其債權ヲ委任者ニ讓渡シ又ハ支拂力ヲ失ヒタルトキハ委任者直

第四百七十六條 仲買人ハ委任者ニ爲シタル前借金ノ償還ノ外尚ホ左ノ諸件ヲ求ムル權利アリ

第一 必要又ハ有益ニシテ商慣習ニ適スルモノニ限り現ニ交拂ヒタル費用及ヒ立寄金ノ差額

第二 各地慣習又ハ契約上ノ仲買手數料

第三 仲買人ニ於テ資力保證ヲ負擔シタルトキハ其保證料

第四 仲買人ハ右ノ債權ニ付キ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒテ留置權ヲ有ス

第四百七十七條 仲買人ノ過失ニ非サレシテ委任者履行セザリシトキ雖モ仲買人ハ慣習アル地ニ限り仲買手數料ヲ求ムルコトヲ得但其他ノ過失手數料ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス

第四百七十八條 仲買人ハ仲買ノ爲メ取引タル商品ニ自己ノ商標又ハ商標ヲ附スルコトヲ得然レトモ其商品ニ附シタル他ノ商人又ハ製造人ノ商標又ハ製造標ヲ其承諾ヲ得シテ變更シ又ハ除去スルコトヲ得又他ノ商人又ハ製造人ヨリ出テタル仲買商品ニ出所ノ區別ヲ表セシテ自己ノ商標又ハ商標ヲ附スルコトヲ得

第四百七十九條 仲買人或其見本又ハ離形ニ從ヒテ委任者履行ス可キトキハ反對ノ明約ナキトキニ限り正當ノ所有者又ハ製作者ニ依リテ非サレハ其委任者履行スルコトヲ得之ニ違フトキハ委任者ハ其商品カ見本又ハ離形ニ適スルモノトシテ問ハズ其契約ヲ解除コトヲ得

第四百八十條 其類其他 標ヲ以テ複製スル學藝・技術上ノ製物出ノ發行引受ハ仲買營業ノ原則ニ依ル可シ

第六節 運送取扱人

第四百八十一條 運送取扱人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商品其他ノ物ノ運送取扱ヲ營業トスル商人タリ

運送取扱人ハ其營業ノ外亦自己ノ計算又ハ他人ノ計算ヲ以テ他ノ商取引ヲ爲スコトヲ得

第四百八十二條 運送取扱人ハ運送貨物約定シタルトキ否トモ問ハズ又其引受ケタル運送貨物自己ノ運送具、賃借ノ運送具又ハ他人ノ運送具ヲ以テ履行スルコトヲ得

運送取扱人同一ノ資ニ任ス

第四百八十三條 運送取扱人ハ別段ノ契約ヲ爲サ、ルトキ又ハ直接ニ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ其運送ヲ適行スル總テノ中間運送取扱人、代辦人運送營業人其他ノ人ノ爲メ運送營業人タルニ任ス

第四百八十四條 運送取扱人ハ運送貨物ノ發行ス可シ其運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲クルコトヲ要ス

第一 年月日、運送取扱人ノ氏名及ヒ住所

第二 運送營業人ノ氏名及ヒ住所

第三 運送貨物ノ種類及ヒ重量

第四 行李アルトキハ其個數・性質及ヒ記載

第五 約定シタル引渡ノ地及ヒ時

第六 運送貨物

其他運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲クルコトヲ得

第一 運送品ノ個數

第二 寄宛人ノ氏名

第三 引渡ノ運送シタル場合ニ於テ支拂フ可キ損害賠償ノ額

第四百八十五條 運送狀ハ反對ノ明記セザルトキハ信託式トス又無記名式ニテ之ヲ發行スルコトヲ得

第四百八十六條 運送品ノ差出人ハ運送狀一通又ハ數通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第四百八十七條 運送取扱人ハ其取引タル總テノ運送取扱契約ノ特段ノ條項ニ日ヲ記入シ且其帳簿ヲ日々閉鎖シテ之ニ署名捺印ス可シ各運送狀ハ其帳簿ノ記入ト同ナルコトヲ要ス

第四百八十八條 運送狀ノ記入ニシテ運送取扱契約又ハ法律・命令ニ背反スルモノハ無効トス

第四百八十九條 運送取扱人ハ左ニ掲クルモノヲ求ムルコトヲ得

第一 運送取扱人ヨリ運送品ニ對シテ爲シタル前借金及ヒ其立替ヘタル運送貨物價還

第二 運送取扱人ヨリ運送品ノ爲メニ支拂ヒタル必要又ハ有益ノ費用及ヒ立寄金ノ差額

第三 各地慣習又ハ契約上ノ運送取扱手數料但運送貨物約定メタル場合ニ於テハ其手數料ヲ明約シタルトキニ限ル

運送取扱人ハ右ノ債權ニ付テハ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ運送品ニ對シテ留置權ヲ有ス

第四百九十條 運送取扱人ノ債權ハ特約アルニ非サレハ到達地ニ於テ運送品ヲ引渡ス際運送取扱人、其受取人又ハ約定シタル運送ノ全部若クハ一分ヲ履行シタル者ヨリ始メテ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百九十一條 運送取扱人ノ責任ニ因リテ生スル請求又ハ抗辯ニ對シテハ運送取扱人及ヒ前項ノ掲ケタル各人ハ連帶且無條件ニテ其責ニ任ス

第四百九十二條 本節ノ規定ハ旅客・運送・新聞紙電報、印刷物其他ノ物ノ運送並ニ廣告ノ取次其他ノ送附事業ノ營業トスル人ニモ之ヲ適用ス然レトモ運送取扱人、代辦人、商事組合及ヒ此類ノ業ニハ之ヲ適用セス

第七節 運送人

第四百九十三條 運送人ハ陸上又ハ國內水上ニ於テ商品其他ノ物ノ運送ヲ營業トスル商人タリ

運送人ハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ其運送品ノ喪失、毀損及ヒ引渡ノ遅延ニ付キ責任ニ任ス但此等責任カ差出人ノ過失、運送品ノ性質又ハ不可抗力ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十四條 運送品ノ引渡ハ約定ノ期間ニ之ヲ爲サ、ルトキ又期間ノ約定ナキ場合ニ於テハ運送ヲ履行スル爲メ通常必要ナル期間ニ之ヲ爲サ、ルトキハ運送シタルモノトス右ノ期間ハ孰レノ場合ニ於テモ運送狀ノ日附ヨリ若シ其日附ナキトキハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第四百九十五條 運送品ノ引渡ノ遅延シタルニ付テハ賠償額ハ運送貨物三分一トス但此額カ損害ノ割合ニ應ゼザルトキ又ハ別段ノ額ヲ約定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十六條 運送品力運送又ハ一分ノ喪失若クハ毀損ニ因リテ其賠償額シ若クハ引用シ得ヘカラサルニ至リタルトキハ少ナクとも其賠償額ノ四分三ヲ失ヒタルトキハ其運送品ヲ運送人ニ委任シテ全額額ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四百九十七條 運送品ハ各箇ノ喪失若クハ毀損ノ場合ニ於テ賠償セザル各箇又ハ各箇ヲ區別シ若クハ若クハ各箇ノ喪失若クハ毀損ノ場合ニ於テ賠償セザル各箇又ハ各箇ノ賠償額力運送品全部ノ賠償ノ四分一ニ應ゼザルトキハ前條ノ規定ヲ適用ス

第四百九十八條 賠償額ハ商品ニ在テハ引渡地ノ商價額ニ從ヒ其他ノ運送品ニ在テハ引渡地ノ普通商價額ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價

額ノ算定ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價



額ヲ掲ケサルモノニ限ル  
第四百九十九條 價額ニ付キ又ハ損傷ノ範圍ニ付キ當事者間ニ爭ノ生ズルトキハ鑑定人ノ鑑定ニ因リテ之ヲ定ム其鑑定人ハ當事者ノ委任シ若シ當事者同意スルコトヲ得サルトキハ其中立ニ因リテ裁判所ニ任ス

第五百條 金銀貨幣、貴金屬、寶石、金銀、有價證券、證書類、他ノ高價物ニ在テハ其賠償ハ運送委託ノ際其物ノ性質及ヒ價額ヲ明白ニ且適當ニ報告シタル特別運送貨表ニ依リテ高價ノ運送貨ヲ承諾シタルトキニ限リ其賠償ニ從ヒテ之ヲ請求スルコトヲ得

第五百一條 前條ニ掲ケサル運送品ニ在テハ運送人ハ豫メ適當ニ報告シタル運送貨表ヲ以テ各行及ハ重量ニ付キ或ハ金額ヲテニ限リ第四百九十八條ノ賠償額ヲ辨濟ス可キ旨ヲ約定スルコトヲ得

第五百二條 前條ニ掲ケタル賠償額ハ至當ノ理由ニ基キタル明示ノ契約ニ依ルニ非サレハ之ヲ増減スルコトヲ得

第五百三條 運送人ハ甚シキ怠慢又ハ惡意ニ因リ總テノ場合ニ於テ第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ規定ニ從ヒテ十分ナル損害賠償ノ義務ヲ負フ

第五百四條 運送人ハ使用人其他自己ノ引受ケタル運送ヲ爲スニ當リ使用スル者ノ爲メ責任ヲ負フ

第五百五條 或ル運送人ニ於テ引受ケタル運送ヲ之ニ次ケ他ノ運送人ノ爲メトキハ其各運送人ハ連帶シテ責任ノ全部ヲ負擔ス

第五百六條 運送人ハ運送ノ爲メ委託セラレタル貨物ニ付テハ差出人又ハ受取人ノ僱人ト看做サレ差出人又ハ受取人ニ對シテ其貨物ノ保存及ヒ適當ナル運送ノ爲メ必要ナル注意ヲ爲ス責任ヲ負フ

第五百七條 第四百八十三條乃至第四百九十一條ノ規定ハ運送人ニモ之ヲ準用ス

第五百八條 差出人又ハ受取人ハ運送前ハ勿論運送中ト雖モ其約定シタル運送ノ施行ヲ止メ又ハ變スル權利アリ然レトモ運送人ニ屬スル求償權ハ此力爲メニ妨ケラレハコト無シ

第五百九條 不可抗力其他ノ意外ノ事ニ因リテ約束シタル運送ノ着手又ハ履行ヲ妨ケラレ又ハ之ヲ爲スコトヲ得ス若クハ其危險ナルニ至リタルトキハ雙方ニ於テ前條ト同一ノ權利ヲ有ス然レトモ此場合ニ於テ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應ジテ運送貨ノ支拂及ヒ費用又ハ立寄金ノ辨償ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得

第五百十條 約定ノ運送ヲ爲サス又ハ中止シタルコトカ運送人ノ過失又ハ行爲ニ出テタル場合ニ於テ其運送人カ他ノ適當ナル運送人ヲ任セサルトキハ差出人又ハ受取人ハ契約ヲ解除シ又ハ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五百十一條 運送人カ運送品又ハ運送狀ヲ最初ニ定メタル受取人ニ交付セザル間ハ差出人ハ運送前ト運送中トヲ問ハス其運送品ニ付キ運送狀ニ掲ケタルモノニ異ナレル處分ヲ爲スコトヲ得

第五百十二條 運送人ハ其求メラレタル運送方特別ナル危險ヲ免カレ、コトヲ得サルトキ又ハ其平常爲ス運送營業ニ屬セザルトキノ外ハ適當ノ理由アルニ非サレハ其運送委託ノ引受ヲ拒ミ又ハ其引受ヲ困難ナル條件ニ繋リタルコトヲ得殊ニ非常ノ情況アルトキノ外ハ運送品又ハ運送設備ノ不完全ナルヲ以テ口實ト爲スコトヲ得

第五百十三條 運送狀又ハ其他ノ指名シタル受取人ハ自己ノ名ヲ以テスル他人ノ名ヲ以テスルトト問ハス到達地ニ於テ運送狀ニ從テ運送人ニ對シテ運送契約ヨリ生ズル債權ヲ主張スルコトヲ得

第五百十四條 運送狀又ハ其他ノ指名シタル受取人カ運送品ノ引受者トハ差出人ノ附シタル

第五百二十九條 賣主カ買戻ヲ約定スル買戻契約ハ差額引取又ハ違法ノ爲利引取其他ノ不法ノ取引ヲ目的トシテ之ヲ取結ヒタルトキハ無効トス

第五百三十條 初ヨリ履行ノ意思ナクシテ取結ヒタル買戻契約又ハ取得者トハ讓渡ヲ禁ゼラレタル物ニ付キ取結ヒタル買戻契約ハ無効トス

第五百三十一條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百三十二條 點檢又ハ嘗試ノ上ニテ爲ス買戻契約ハ買主カ其物ヲ承諾セハトノ條件ヲ以テ之ヲ取結ヒタルトキ看做ス

第五百三十三條 點檢又ハ嘗試ニ因リテ定マリタル期間又ハ點檢者トハ嘗試ノ爲メ必要ナル期間ニ其承諾ヲ達ヘサルトキハ條件ハ成就セザリシモノト看做ス之ニ反シテ點檢又ハ嘗試ノ爲メ買主カ買主ニ引渡シタル場合ニ於テ買主カ右期間ノ満了マテニ承諾ヲ達ヘス又其物ヲ賣主ニ還付セザルトキハ條件ハ成就シタルモノト看做ス

第五百三十四條 商標、見本、雛形又ハ試品ヲ以テ爲ス買戻契約ハ無條件ノモノニシテ此契約ニ依リテ賣主ハ物カ商標、見本、雛形又ハ試品ニ適合ス可ク且別段ノ契約アルニ非サレハ其物カ商標、見本、雛形又ハ試品ノ所有者又ハ製出者ニ由ルニテ可キ義務ヲ負フ

第五百三十五條 物ヲ點檢後無條件ニテ賣主ニ引渡シタルトキハ賣主ハ自己ノ詐欺又ハ買主ノ重要ナル錯誤アル場合ノ外ハ其擔保ヲ引受ケ又ハ買主ニ隱蔽シタル欠陥者トハ瑕疵ニ付テテ責任ヲ負フ

第五百三十六條 買主ハ欠陥者トハ瑕疵ノ些少ナルトキ又ハ賣主ニ過失ナキトキハ代價ノ相當ナル減少ノミヲ請求スルコトヲ得

第五百三十七條 商品及ヒ代價ヲ明細ニ記載シテ見本、雛形、試品、商品目錄其他ノ取引上ノ通告書ヲ指定セル人ニ送付シタルトキハ其送付ハ隠蔽セラル、提供ト看做ス但送付者カ其提供ヲ變更スル權利ヲ保留シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十八條 物ノ引渡マテハ賣主ハ至重ノ注意ヲ爲サ、ルニ因リテ生ゼシタル喪失又ハ毀損ニ付キ買主ニ對シテ責任ヲ負フ但買主カ受取ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十九條 契約取結ノ前豫メ物ヲ買主ニ引渡シタルトキハ買主ハ賣主ニ對シテ前條ニ掲ケタル責任ヲ負フ

第五百四十條 契約取結ノ時物カ第三者ノ手ニ存在スルトキハ其第三者ハ賣主ニ引渡スト同様に其物ヲ買主ニ引渡ス義務アリ

第五百四十一條 代價ヲ明細ニ記載シタル場合ニ於テ當事者ノ別段ノ意思ナキトキハ履行ノ時及ヒ地ニ於ケル市場代價又取引所ニ於テ賣買スル物ニ在テハ取引所相場代價ヲ支拂フコトヲ要ス

第五百四十二條 買主ハ別段ノ契約又ハ商標、見本、雛形、試品、商品目錄ニ代價ヲ支拂フ義務ナシ

條件ノ履行ヲ拒ムトキ又ハ運送貨其他運送人ノ正當ナル債權ノ支拂ヲ爲サ、ルトキ又ハ其受取人ヲ抽出スルヲ得サルトキハ運送人ハ運送品ノ倉庫ニ寄託シ又ハ裁判所ノ命令ニ依リテ他人ニ寄託シ及ヒ第三百九十二條ノ規定ニ從ヒ其總債權ノ額ニ滿ラズルマテ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百五十五條 受取人留保ヲ爲サシテ運送品ヲ受取り及ヒ運送人ニ支拂ヲ爲シタルトキハ運送人ニ對シテ總テノ請求權ハ消滅ス

第五百五十六條 喪失、毀損又ハ運送ノ爲メ運送人ニ對シテ總テノ請求權ハ消滅ス

第五百五十七條 引渡ヲ爲シタル日又ハ全部喪失ノ場合ニ於テハ其引渡ヲ爲ス可カリシ日ヨリ一箇年ヲ以テ時効ニ應ル

第八節 旅客運送  
第五百五十七條 陸上又ハ國內水上ニ於テ通商運送貨ヲ受ケテ旅客ヲ運送スル者ハ其運送ヲ爲スニ當リ旅客ノ爲メ至重ノ注意ヲ爲サ、ルニ因リテ之ニ加ヘタル身體上ノ傷害ニ付キ賠償ヲ爲ス義務アリ但爭アル場合ニ於テハ自己ノ過失ニ非サルヲ證明スルコトヲ要ス

第五百五十八條 損害賠償ハ傷害ヲ被リタル者ニ生ゼシタル治療費及ヒ特別ノ給養費ノ賠償ト賠償金トヲ包括スル賠償金ハ災害ノ結果ノ輕重、長短及ヒ罹災者ノ所得ノ關係ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第五百五十九條 災害ノ爲メ死亡シ又ハ永久ノ廢疾不具者トハ所得無能力トナリタルトキハ慰養金ノ額ハ尚ホ罹災者ノ家族ノ生計ノ需用ヲモ斟酌シテ之ヲ定ム

第五百六十條 旅行行李ニ付テハ旅客カ攜帶スルモノトシテ又別段ノ報酬ヲ支拂フト否トヲ問ハス之ヲ旅客運送人ニ交付シ且必要ノ場合ニ於テ其性質及ヒ價額ヲ明白ニ報告シタルトキハ旅客運送人ハ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

第五百六十一條 手荷物ニ付テハ旅客運送人ハ過失ノ責ノ自己ニ歸スル場合ニシテ其手荷物カ現貨且相當ノ旅行費用ヲ充タスニ必要ナルモノニ限リ賠償ノ責任ヲ負フ

第五百六十二條 旅行行李ハ別段ノ委託ナキトキハ旅行ノ終ニ於テ之ヲ旅客ニ交付シ若シ交付スルコトヲ得サルトキハ三日間保護ス可シ此期間ノ満了ハ旅客運送人ノ責任ハ第三百四十九條ノ規定ニ從フ

第五百六十三條 前條ノ外ハ旅客及ヒ行李ノ運送ニ付キ前節ノ規定ヲ適用ス其旅客ノ衣服又ハ裝具ニ對シテハ留置權ヲ行フコトヲ得

第五百六十四條 旅客及ヒ行李ニ付テハ運送貨ノ前節ニ爲シタルト否トニ拘ハラズ又之ヲ支拂フコトヲ要セザル場合ト雖モ仍ホ存スルモノトス

第九節 買戻  
第五百二十五條 契約取結ノ時現ニ存在シ且賣主ニ處分權ノ屬スル物ニ非サレハ買戻契約ノ目的物タルコトヲ得

第五百二十六條 他人ノ物ト雖モ其占有ヲ正當ノ方法ヲ以テ取得シタル者ハ所有權移轉ノ時ニ於テ買主善意ナルトキハ之ヲ買主スルコトヲ得但無記名證券ノ除外品及ヒ紛失品ハ此限ニ在ラス

第五百二十七條 契約取結ノ時現ニ存在スルモノ天然ノ原因ニ由リテ未タ引渡ス能ハサル物ノ買戻契約ハ其物カ引渡ス得ヘキモノト爲ラハトノ條件ヲ以テスル契約トナリ但買主カ他ノ惡意ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十八條 契約取結ノ時現ニ存在セザル物ノ買戻契約ハ雙方決レモ此事實ヲ知ラス且其存在ノ確實ヲササレコトヲ認メテ之ヲ取結ヒタルトキハ有効トス

以テ故隱匿書ヲ作ラシメ之ヲ賣主ニ交付スル權利アリ

第五百四十三條 別段ノ契約ナキトキハ買主ハ履行ノ時及ヒ地ニ於テ普通ナル品質ノ商品ヲ引渡ス義務アリ

第五百四十四條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百四十五條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百四十六條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百四十七條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百四十八條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百四十九條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百五十條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百五十一條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百五十二條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百五十三條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百五十四條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス

第五百五十五條 買主ハ買戻契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ヨリ指定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其指定、分割者トハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失者トハ賠償ノ危險ヲ負擔ス











第六百六十三條 助産ノ保險ハ保險証券ニ記載シタル住居其他ノ場所ニ關シテノミ効力ヲ有ス然レトモ其契約ハ被保險物一時保險外ノ場所ニ移シタルモ此力爲メニ停止セラルコト無シ

第六百六十四條 自然又ハ暴發ノ危險アル物ニ付テハ被保險者カ契約上若クハ相當ノ豫防處分ヲ爲サルトキニ限リ第六百三十五條ノ規定ヲ適用ス

第六百六十五條 火災カ被保險者ノ方ニ起リタルト近傍ニ起リタルトハ消防若クハ救濟ノ處分又ハ竊盜其他類似ノ事由ニ因リテ被保險者ニ加ヘタル損害モ火災損害ト看做ス

第六百六十六條 雷電ノ危險ハ火災若クハ機關ノ破裂ノ危險火災若クハ機關ニ原因スル破裂ノ危險其他類似ノ危險及ヒ雷電ノ危險同時ニ火災ノ起リタルト否トハ問ハス之ノ火災ノ危險ト同視ス但ヒ他ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十七條 土地ノ墾實其他ノ天産物ノ保險ハ雨風洪水旱魃ノ如キ人ノ力ヲ注意トシテ防テ能ハサル非ラズ天災ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十八條 保險ハ一箇年間効力ヲ有ス但更ニ短キ期間ヲ約定シタルトキハ此限ニ在ラズ

第六百六十九條 損害ノ生シタル場合ニ在テハ保險シタル產物カ其損害ヲ成熟シタル現狀ニ於テ有シタル可キ價額ト其災害ノ後ニ有スル價額トノ間ノ差額ヲ被保險額ト割合ニ照シテ被保險者ニ償フ但被保險額カ成熟シタル現狀ニ於テ有シタル可キ價額ヲ超過セザルトキニ限ル

第六百七十條 保險者ハ損害ノ額カ其損害ノ生スルニ非サレハ產物ノ有シタル可キ價額ノ少ナクとも四分一二滿タサルトキハ其責ニ任セズ

第六百七十一條 運送中ニ在ル物ハ運送人ヨリ又ハ其物ノ到達地ニ安著スルコトニ付キ利益ヲ有スル各人ヨリ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得

第六百七十二條 保險者ハ運送品ノ保險ニ因リ運送ノ期間中其物ノ毀失若クハ毀損ノ各危險ヲ引受テ其危險中ニ火災盜難ノ敵ノ威力及ヒ此類ノモノヲ包含ス但或ル危險ヲ明示シテ取除キタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十三條 運送ノ期間ハ別段ノ契約アルニ非サレハ運送人ニ物ヲ交付シタル時ヨリ受取人ニ其引渡ヲ終フル時マデトス

第六百七十四條 運送ノ期間中運送品ヲ讓渡シタルトキハ保險ハ第六百四十條ノ規定ニ從ヒテ讓渡人ヨリ新取得者ニ移ル

第六百七十五條 價額ヲ保險証券ニ記載セザル場合ニ於テ損害ノ價額ヲ評定スルニハ最初ノ代價及ヒ其附帶ノ費用ヲ標準トス若シ之ヲ知ル能ハサルトキハ積込ノ地及ヒ時ニ於ケル普通價額若クハ市場價額ニ諸稅 保險費用 積込費用及ヒ被保險者ノ負擔ニ關スル運送費用ヲ合算シタルモノヲ標準トス

第六百七十六條 保險証券ニハ第六百四十六條ニ掲ケタル諸條件ノ外尚ホ運送ノ方法 運送員ノ種類 運送取扱人及ヒ運送人ノ氏名 運送ノ線路及ヒ發送地並ニ到達地ヲ運一記載シ且立寄地アルトキハ其地及ヒ運送ノ期間ノ約定アルトキハ其期間ヲ據ルコトヲ得

第六百七十七條 總テ生命保險 病傷保險及ヒ年金保險ノ場合ニ於テハ被保險者若クハ其權利承継人ハ正當時期ニ報告シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ニ從ヒ自己ニ屬スル價額ヲ受テ契約ヲ解除スル權ヲ有シ又ハ報告ヲ以テ價額ヲ請求ムルコトヲ得

第六百七十八條 價額ノ預ケ金ニ其契約ヲ變更スル權利ヲ有ス

第六百七十九條 保險者ハ少ナクとも毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スル義務アリ

第六百八十條 裁判所ハ何時ニモ被保險者ノ申立ニ因リ保險ノ社ノ保險業ノ現況 取引ノ實況 貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ営ム原由一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ檢査セシメ其結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スル權利アリ其檢査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルトキハ保險會社ニ負擔ス

第六百八十一條 一部以テ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ業務ヲ営ム會社ハ各該業務ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スルコトヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其種別ノ附屬ハ第六百四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分限ス可シ

第六百八十二條 保險會社ハ亦前項ニ準ジ

第六百八十三條 保險會社カ第六百九十九條乃至第六百九十三條ノ規定ニ背クトキハ被保險者若クハ承継人得シテ同業者若クハ他業ノ會社ト合併スルコトキハ被保險者ニ告知シタル後保險業ノ原由ヲ變更シ得クハ實上ノ犯ストキハ各被保險者ハ豫告ヲ爲スコト無クシテ何時ニモ保險ヲ解除シ且其損込ミタル支拂期間ノ保險金總額ノ償還及ヒ損込ミタル日ヨリノ利息上ノ利息ヲ請求ムル權利アリ

第六百八十四條 保險會社カ將來ノ義務ヲ履行スル能ハスト豫知ス可キ取引ノ實況ニ至リタルトキハ其會社カ未ダ支拂ヲ停止セスト雖モ被保險者ハ破産宣告ヲ請求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

第六百八十五條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代理人ヲ以テ保險契約ヲ取結フ者ハ其代理人ニ對シテ何等ノ如何ニ拘ハラズ其契約ニ關シテハ代理人ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服ス且其裁判所ノ差シテ可キ裁判上ノ代理人ヲ指定ス可キアリ

第六百八十六條 第六百八十七條乃至第六百九十三條ノ規定ハ本節ノ規定ヲ適用ス

第六百八十七條 本節ノ規定ハ一人又ハ組合ニシテ保險業ヲ爲スモノニモ之ヲ適用ス

第六百八十八條 手形ハ或ル金額カ超過ナク支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券ニシテ合法ノ原因ヲ當然含有スルモノナリ

第六百八十九條 總テ生命保險 病傷保險及ヒ年金保險ノ場合ニ於テハ被保險者若クハ其權利承継人ハ正當時期ニ報告シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ニ從ヒ自己ニ屬スル價額ヲ受テ契約ヲ解除スル權ヲ有シ又ハ報告ヲ以テ價額ヲ請求ムルコトヲ得

第六百九十條 價額ノ預ケ金ニ其契約ヲ變更スル權利ヲ有ス

第六百九十一條 保險者ハ少ナクとも毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スル義務アリ

第六百九十二條 裁判所ハ何時ニモ被保險者ノ申立ニ因リ保險ノ社ノ保險業ノ現況 取引ノ實況 貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ営ム原由一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ檢査セシメ其結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スル權利アリ其檢査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルトキハ保險會社ニ負擔ス

第六百九十三條 一部以テ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ業務ヲ営ム會社ハ各該業務ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スルコトヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其種別ノ附屬ハ第六百四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分限ス可シ

第六百九十四條 保險會社ハ亦前項ニ準ジ

第六百九十五條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代理人ヲ以テ保險契約ヲ取結フ者ハ其代理人ニ對シテ何等ノ如何ニ拘ハラズ其契約ニ關シテハ代理人ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服ス且其裁判所ノ差シテ可キ裁判上ノ代理人ヲ指定ス可キアリ

第六百九十六條 第六百九十七條乃至第六百九十三條ノ規定ハ本節ノ規定ヲ適用ス

第六百九十七條 本節ノ規定ハ一人又ハ組合ニシテ保險業ヲ爲スモノニモ之ヲ適用ス

第六百九十八條 手形ハ或ル金額カ超過ナク支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券ニシテ合法ノ原因ヲ當然含有スルモノナリ

第六百九十九條 總テ生命保險 病傷保險及ヒ年金保險ノ場合ニ於テハ被保險者若クハ其權利承継人ハ正當時期ニ報告シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ニ從ヒ自己ニ屬スル價額ヲ受テ契約ヲ解除スル權ヲ有シ又ハ報告ヲ以テ價額ヲ請求ムルコトヲ得

第七百條 價額ノ預ケ金ニ其契約ヲ變更スル權利ヲ有ス

第七百零一條 保險者ハ少ナクとも毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スル義務アリ

第七百零二條 裁判所ハ何時ニモ被保險者ノ申立ニ因リ保險ノ社ノ保險業ノ現況 取引ノ實況 貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ営ム原由一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ檢査セシメ其結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スル權利アリ其檢査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルトキハ保險會社ニ負擔ス

第七百零三條 一部以テ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ業務ヲ営ム會社ハ各該業務ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スルコトヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其種別ノ附屬ハ第六百四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分限ス可シ

第七百零四條 保險會社ハ亦前項ニ準ジ

第七百零五條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代理人ヲ以テ保險契約ヲ取結フ者ハ其代理人ニ對シテ何等ノ如何ニ拘ハラズ其契約ニ關シテハ代理人ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服ス且其裁判所ノ差シテ可キ裁判上ノ代理人ヲ指定ス可キアリ

第七百零六條 第六百九十七條乃至第六百九十三條ノ規定ハ本節ノ規定ヲ適用ス

第七百零七條 本節ノ規定ハ一人又ハ組合ニシテ保險業ヲ爲スモノニモ之ヲ適用ス

第七百零八條 手形ハ或ル金額カ超過ナク支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券ニシテ合法ノ原因ヲ當然含有スルモノナリ

第七百零九條 總テ生命保險 病傷保險及ヒ年金保險ノ場合ニ於テハ被保險者若クハ其權利承継人ハ正當時期ニ報告シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ニ從ヒ自己ニ屬スル價額ヲ受テ契約ヲ解除スル權ヲ有シ又ハ報告ヲ以テ價額ヲ請求ムルコトヲ得

第七百一十條 價額ノ預ケ金ニ其契約ヲ變更スル權利ヲ有ス

第七百一十一條 保險者ハ少ナクとも毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スル義務アリ

第七百一十二條 裁判所ハ何時ニモ被保險者ノ申立ニ因リ保險ノ社ノ保險業ノ現況 取引ノ實況 貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ営ム原由一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ檢査セシメ其結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スル權利アリ其檢査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルトキハ保險會社ニ負擔ス

第七百一十三條 一部以テ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ業務ヲ営ム會社ハ各該業務ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スルコトヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其種別ノ附屬ハ第六百四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分限ス可シ

第七百一十四條 保險會社ハ亦前項ニ準ジ

第七百一十五條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代理人ヲ以テ保險契約ヲ取結フ者ハ其代理人ニ對シテ何等ノ如何ニ拘ハラズ其契約ニ關シテハ代理人ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服ス且其裁判所ノ差シテ可キ裁判上ノ代理人ヲ指定ス可キアリ

第七百一十六條 第六百九十七條乃至第六百九十三條ノ規定ハ本節ノ規定ヲ適用ス

第七百一十七條 本節ノ規定ハ一人又ハ組合ニシテ保險業ヲ爲スモノニモ之ヲ適用ス

第七百一十八條 手形ハ或ル金額カ超過ナク支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券ニシテ合法ノ原因ヲ當然含有スルモノナリ

第七百一十九條 總テ生命保險 病傷保險及ヒ年金保險ノ場合ニ於テハ被保險者若クハ其權利承継人ハ正當時期ニ報告シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ニ從ヒ自己ニ屬スル價額ヲ受テ契約ヲ解除スル權ヲ有シ又ハ報告ヲ以テ價額ヲ請求ムルコトヲ得

第七百二十條 價額ノ預ケ金ニ其契約ヲ變更スル權利ヲ有ス

第七百二十一條 保險者ハ少ナクとも毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スル義務アリ

第七百二十二條 裁判所ハ何時ニモ被保險者ノ申立ニ因リ保險ノ社ノ保險業ノ現況 取引ノ實況 貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ営ム原由一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ檢査セシメ其結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スル權利アリ其檢査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルトキハ保險會社ニ負擔ス

第七百二十三條 一部以テ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ業務ヲ営ム會社ハ各該業務ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スルコトヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其種別ノ附屬ハ第六百四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分限ス可シ

第七百二十四條 保險會社ハ亦前項ニ準ジ

第七百二十五條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代理人ヲ以テ保險契約ヲ取結フ者ハ其代理人ニ對シテ何等ノ如何ニ拘ハラズ其契約ニ關シテハ代理人ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服ス且其裁判所ノ差シテ可キ裁判上ノ代理人ヲ指定ス可キアリ

第七百二十六條 第六百九十七條乃至第六百九十三條ノ規定ハ本節ノ規定ヲ適用ス

第七百二十七條 本節ノ規定ハ一人又ハ組合ニシテ保險業ヲ爲スモノニモ之ヲ適用ス

第七百二十八條 手形ハ或ル金額カ超過ナク支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券ニシテ合法ノ原因ヲ當然含有スルモノナリ

第七百二十九條 總テ生命保險 病傷保險及ヒ年金保險ノ場合ニ於テハ被保險者若クハ其權利承継人ハ正當時期ニ報告シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ニ從ヒ自己ニ屬スル價額ヲ受テ契約ヲ解除スル權ヲ有シ又ハ報告ヲ以テ價額ヲ請求ムルコトヲ得

第七百三十條 價額ノ預ケ金ニ其契約ヲ變更スル權利ヲ有ス

第七百三十一條 保險者ハ少ナクとも毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スル義務アリ

第七百三十二條 裁判所ハ何時ニモ被保險者ノ申立ニ因リ保險ノ社ノ保險業ノ現況 取引ノ實況 貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ営ム原由一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ檢査セシメ其結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スル權利アリ其檢査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルトキハ保險會社ニ負擔ス

第七百三十三條 一部以テ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ業務ヲ営ム會社ハ各該業務ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スルコトヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其種別ノ附屬ハ第六百四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分限ス可シ

第七百三十四條 保險會社ハ亦前項ニ準ジ

第七百三十五條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代理人ヲ以テ保險契約ヲ取結フ者ハ其代理人ニ對シテ何等ノ如何ニ拘ハラズ其契約ニ關シテハ代理人ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服ス且其裁判所ノ差シテ可キ裁判上ノ代理人ヲ指定ス可キアリ























既ニ支拂ヒタル保險料ハ契約解除ノ場合ニ在テハ之ヲ償還スルコトヲ要ス

第九百五十八條 被保險者ハ危險ノ始マル前ニ航海ヲ止メタルトキハ被保險額ノ二分一ノ損害賠償ヲ支拂ヒテ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九百五十九條 被保險者ハ海上危險ノ發生シテ暴風雨、波浪、暴風、漂流、衝突、投

第九百六十條 被保險者ハ水際内岸、船舶、船員、貨物、積荷、運送品、船中ノ積荷、

第九百六十一條 損害ヲ賠償スル可キ被保險者ノ義務ハ被保險者カ其損害ニ付キ船長其他ノ人ニ

第九百六十二條 保險人ハ契約上ノ航海期間ヲ延長シタルトキハ割合ニ應ジテ之ヲ増スコト

第九百六十三條 旅客運送貨物ノ保險ハ航海ノ延長、旅客ノ遺失、避難港ニ於ケル旅客ノ給養、

第九百六十四條 貨物運送貨物ハ旅客運送貨物ノ通常額ヲ増加シテ運送貨物又ハ旅客貨物ノ危險

第九百六十五條 委棄ハ全被保險額ノ支拂ヲ受ケテ保險者ニ被保險物ヲ委付スルニ在リ

第九百六十六條 委棄ハ全被保險額ノ支拂ヲ受ケテ保險者ニ被保險物ヲ委付スルニ在リ

第九百六十七條 委棄ハ全被保險額ノ支拂ヲ受ケテ保險者ニ被保險物ヲ委付スルニ在リ

第九百六十八條 使用ニ耐ハサル船舶ノ積荷ハ船長其他ノ船舶ヲ以テ之ヲ到達港ニ送還スル

第九百六十九條 船中ノ積荷ハ船長其他ノ船舶ヲ以テ之ヲ到達港ニ送還スル

第九百七十條 船中ノ積荷ハ船長其他ノ船舶ヲ以テ之ヲ到達港ニ送還スル

第九百七十一條 船中ノ積荷ハ船長其他ノ船舶ヲ以テ之ヲ到達港ニ送還スル

第九百七十二條 委棄シタル物ニ付テハ被保險者ノ權利ハ其委棄ノ承諾又ハ有効ナリトノ判

第九百七十三條 被保險者ハ委棄申込後ト雖モ被保險物ヲ救助シ又ハ取戻スルニ付テハ一層

第九百七十四條 被保險者ハ委棄申込後ト雖モ被保險物ヲ救助シ又ハ取戻スルニ付テハ一層

第九百七十五條 一旦申込ミタル委棄ハ効力ハ後日ニ至リ船舶ノ救助又ハ歸航ニ因リテ變

第九百七十六條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百七十七條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百七十八條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百七十九條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十一條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十二條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十三條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十四條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十五條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十六條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十七條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十八條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十九條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十一條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十二條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十三條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十四條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十五條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十六條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十七條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十八條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十九條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

能ハサルトキニ限リ委棄スルコトヲ得者シ船長カ其積荷ヲ送還スルコトヲ得タルトキハ保

第九百六十九條 被保險者ハ損害ノ通知ヲ得タル後又ハ第九百六十六條ニ定メタル期間ノ満

第九百七十條 被保險者ハ別段ノ契約アルニ非サレハ委棄ノ申込ヲ受ケタル後三箇月内ニ被保

第九百七十一條 被保險者ハ詐欺ノ委棄申込ヲ爲シタルトキハ其保險上ノ權利ヲ失ヒ且委棄

第九百七十二條 委棄シタル物ニ付テハ被保險者ノ權利ハ其委棄ノ承諾又ハ有効ナリトノ判

第九百七十三條 被保險者ハ委棄申込後ト雖モ被保險物ヲ救助シ又ハ取戻スルニ付テハ一層

第九百七十四條 被保險者ハ委棄申込後ト雖モ被保險物ヲ救助シ又ハ取戻スルニ付テハ一層

第九百七十五條 一旦申込ミタル委棄ハ効力ハ後日ニ至リ船舶ノ救助又ハ歸航ニ因リテ變

第九百七十六條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百七十七條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百七十八條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百七十九條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十一條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十二條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十三條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十四條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十五條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十六條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十七條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十八條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百八十九條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十一條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十二條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十三條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十四條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十五條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十六條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十七條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十八條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第九百九十九條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船

第一千條 船舶積荷者ノ債權及ヒ冒險貸借、海損並ニ救助ニ因リテ生シタル債權ハ船







ハ一回に限ル  
 第一ノ集會ハ普通ノ調査會ヨリ四週日後ニ之ヲ爲ス協約ノ申立書ハ少ナクモ集會ノ二十日前ニ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ公衆ノ展閱ニ供シ且其旨ヲ公告ス可シ  
 第三十九條 協約ヲ承諾スルニハ出席シタル債權者ノ過半數ノ承諾ヲ要ス其過半數ハ債權額ノ總額ノ四分三以上ニ當ルコトヲ要ス  
 管財人及ヒ債權者ノ有スル債權者又其後ニ至リ債權ノ確定シタル債權者ハ協約ニ對シテ四十日以内ニ理由ヲ附シタル異議ヲ裁判所ニ申立ルコトヲ得  
 第四十條 債權者ノ承諾シタル協約ハ裁判所ノ認可ヲ得テ始メテ法律上有効トス其認可又ハ棄却ニ付テハ決定ハ破産主任官ノ親筆ヲ聽キ前條ノ期間滿了後直ニ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ債權者及ヒ異議申立ノ權利アル者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第四十一條 協約ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ棄却ス可シ  
 第一 第三十八條及ヒ第三十九條ノ規定ヲ踐行セザルトキ  
 第二 協約ニ依リ或ル債權者カ其承諾ナクシテ債權ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被フルトキ  
 第三 協約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキ  
 第四 協約カ公益ニ屬スルコトキ  
 第四十二條 協約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキハ當然消滅シ其審問中ハ免訴又ハ無罪ノ宣告ヲ受ケタルマテ之ヲ停止ス  
 前條第三號ニ掲ケタル理由アルトキハ協約ヲ認可シ得テ後モ尚ホ之ニ對シテ異議ヲ申立ルコトヲ得  
 第四十三條 協約ノ確定シタルトキハ管財人ハ直ニ其職務ヲ罷メ且其職務ニ付キ計算ヲ爲スコトヲ得  
 破産者ハ協約ノ別段ノ定ナキトキ任意ノ管理及ヒ處分ノ爲メ其財産ヲ取戻スコトヲ得  
 協約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第四十四條 協約カ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若クハ取消サルトキ又ハ不履行ノ爲メ解除セラレトキハ破産手續ヲ再行シ直ニ之ヲ爲ス其後及ヒ協約ヲ終局ニ至ラシム其再行シタル手續ハ再行マテノ間ニ債權者得タル者モ參加スルコトヲ得  
 不履行ノ場合ニ在テハ協約ノ爲メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免カレズ  
 第八章 配當  
 第四十五條 第三十二條ニ掲ケタル債權及ヒ優先權アル債權ヲ支拂ヒタル後ニ殘レル財團ハ他ノ債權者間ニ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ配當ス  
 破産者カ資本ヲ分テ數個ノ營業ヲ爲シタル場合ニ在テハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團ヨリ優先權ヲ以テ優先權ヲ受ケ  
 第四十六條 配當ハ普通ノ調査會ノ終了後ハ配當ニ足ル可キ財團ノ生スル毎ニ管財人ノ調製シテ破産主任官ノ認可ヲ受ケタル配當案ニ依リテ之ヲ爲ス其案ハ破産主任官ノ之ヲ署名シ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ提出シ且其旨ヲ公告ス可シ  
 配當案ノ展閱ニ供スルハ其公告ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ裁判所ニ申立ルコトヲ得  
 第四十七條 前條ニ掲ケタル期間ニ配當案ニ對シテ異議ヲ申立ル者ハキトキ又ハ異議ノ署名シタルトキハ管財人ハ各債權者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲ス若シ債務證書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ破産主任官ノ許可ヲ得テ債權表ニ依リ支拂ヲ爲スコトヲ得且其場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取書ヲ記スルコトヲ要ス

第四十八條 財團ノ換價及ヒ配當ヲ全ク終リタルトキハ債權者集會ヲ開キ此集會ニ於テ管財人ハ終局ノ計算ヲ爲スコシ此計算ノ了了シタルトキハ裁判所ハ直ニ破産主任官ノ申立ニ因リテ破産手續ヲ終結シ決定ス此決定ハ之ヲ公告ス可シ  
 第四十九條 破産手續終結後ハ債權者受ケタル債權者ハ破産手續ニ於テ確定シタルニ因リテ得タル權利名義ニ基キ其債權ヲ債務者ニ對シテ無限ニ行フコトヲ得  
 第九章 有罪破産  
 第五十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハズ履行スル意ナキ義務又ハ意思ヲ能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負持シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ全部若クハ一分ヲ該當シ轉讓シ若クハ脱離シ又ハ借方現額ヲ過度ニ擧ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ隱匿シ若クハ偽造、變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス  
 第五十一條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハズ左ニ掲ケル行爲ヲ爲シタルトキハ過意破産ノ刑ニ處ス  
 第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博奕、空取引又ハ不相應ノ贈與ニ因リテ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ナル債務ヲ負ヒタルトキ  
 第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ増價ヲ爲シタルトキ  
 第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或ル債權者ニ利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ  
 第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ毀滅シ又ハ全ク記載セザルトキ  
 第五 破産者カ第三十二條、第九十七條又ハ第三十三條第二項ニ規定シタル義務ヲ履行セザルトキ  
 第五十二條 前二條ノ罰則ハ商事會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行爲ヲ行フ際助者ヲ助ケ又ハ有罪行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ハル者ニモ之ヲ適用ス  
 第五十三條 債權者集會ニ於ケル議決ニ關シ債權者ニ賄賂ヲ爲シタルトキハ其雙方ヲ二年以下ノ重懲罰又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十章 破産者ノ生スル身上ノ結果  
 第五十四條 破産宣告ヲ受ケタル債務者又ハ破産シタル商事會社ノ無限責任社員若クハ取締役ハ復職ヲ得ルニ至ルマテハ取引所ニ立入ルコト仲立人ト爲リ合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社ノ取締役ト爲ルコト清算人、破産管財人若クハ商事會社ノ職員ト爲ルコト商業會議所ノ會員ト爲ルコト其他商業上ノ榮譽職ニ就クコトヲ得ス  
 第五十五條 復職ヲ得ルニハ協約ノ調ヒタルトキ又ハ破産者カ元債、利息及ヒ費用ノ全額ヲ償還スル準備及ヒ資力アルコトヲ證明ス可シ  
 復職ノ申立ニハ債權者ノ受取書其他必要ナル證據物ヲ添フ可シ  
 然レトモ協約ノ場合ニ在テハ第一項ノ證明ヲ爲スコト無クシテ取引所ニ立入ルコトヲ得又商事會社ニ付キ協約ノ調ヒタルトキハ無限責任社員若クハ取締役ハ亦其證明ヲ要セスシテ會社ヲ復職スルコトヲ得  
 第五十六條 復職ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ異議アル者ヲシテ二箇月ノ期間ニ異議ヲ起サシメンカ爲メ裁判所ノ提問場ト引附トニ其旨ヲ掲示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ檢事ニ通知ス可シ  
 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復職ノ申立ヲ許可スルコト否トナ決定ス此決定ニ對シテハ

即時抗告ヲ爲スコトヲ得確定シタル決定ハ之ヲ公告ス  
 第五十七條 復職ハ債權者ノ死亡後モ之ヲ許ス  
 第五十八條 復職ハ詐欺破産ノ爲メニ判決ヲ受ケタル破産者又ハ重罪、輕罪ノ爲メニ罰金公債者若クハ停止公債者ケテ其期間中ニ在ル破産者ニハ之ヲ許サズ  
 過意破産ノ場合ニ在テハ復職ハ刑ノ滿期ト爲リ又ハ恩赦ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ許サズ  
 第十一章 支拂猶豫  
 第五十九條 商ヲ爲スニ當リ自己ノ過失ナクシテ一時其支拂ヲ中止セザルコトヲ得サルニ至リタル者ハ商事上ノ債權者ノ過半數ノ承諾ヲ得テ其營業所若クハ住所ノ裁判所ヨリ右債權者ニ對シテ支拂猶豫ニ付キ一箇年以内ノ支拂猶豫ヲ受クルコトヲ得  
 第六十條 支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルコトヲ要ス  
 第一 支拂停止ノ事由ノ完全ナル説明  
 第二 貸借對照表、財産目錄及ヒ住所ノ債權額トテ明示シタル債權者名簿  
 第三 債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノ、完全ナル償價ヲ爲シ得ル方法、期間及ヒ此カ爲メ供スルコトヲ得ル擔保ノ證明  
 右申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ且債權者ノ集會期日ヲ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコトヲ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集ヲ受ケ  
 支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之ヲ許可スルコトヲ得  
 第六十一條 集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判事ノ上席ヲ以テ債權者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論ヲ爲ス其申立ヲ承諾スルニハ第三十六條ニ掲ケタル過半數ヲ要ス其辯論及ヒ議決ニ付テハ調書ヲ作ル可シ  
 第六十二條 裁判所ハ承諾ヲ得タル支拂猶豫ノ認否ニ付キ主任判事ノ親筆ヲ聽キテ決定ヲ爲ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 支拂猶豫ハ申立ニ因リテ前條ノ手續ニ從ヒ一回ニ限り之ヲ延長スルコトヲ得然レトモ其期間ハ一箇年ヲ超スルコトヲ得ス  
 第六十三條 債權者有効ナル支拂猶豫ヲ得タルトキハ債權期間中其以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受クルコト無シ但協約ノ履行及ヒ業務ノ施行ニ關シテハ主任判事ノ監督ヲ受ケ  
 債權者ノ保證人及ヒ共同債務者ノ義務ハ右ニ條ノ爲メニ變更スルコト無シ  
 第六十四條 支拂猶豫ノ承認ヲ得タル裁判所ノ棄却シタルトキ又ハ後日ニ至リ債務者ノ詐欺若クハ不正ノ爲メ若クハ法律上ノ條件ノ缺カルカ爲メ之ヲ廢止シタルトキ又ハ債務者ニ於テ其協約ノ履行セザルトキ又ハ其協約期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ヨリ強制執行ヲ爲スコトキハ直ニ之ヲ債務者ニ對シテ破産手續ヲ開始ス此場合ニ於テハ支拂猶豫申立ノ日附ヲ以テ支拂停止ノ日ト定ム

第六十五條 復職ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ異議アル者ヲシテ二箇月ノ期間ニ異議ヲ起サシメンカ爲メ裁判所ノ提問場ト引附トニ其旨ヲ掲示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ檢事ニ通知ス可シ  
 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復職ノ申立ヲ許可スルコト否トナ決定ス此決定ニ對シテハ



明治廿三年五月廿七日印刷出版

早稻田大学

发行所 和田篤太郎  
印刷者



JW-20